

特 116

411

福岡縣教育會編

福岡縣地理書

大正
5.10.16
丙亥



始



特116
41

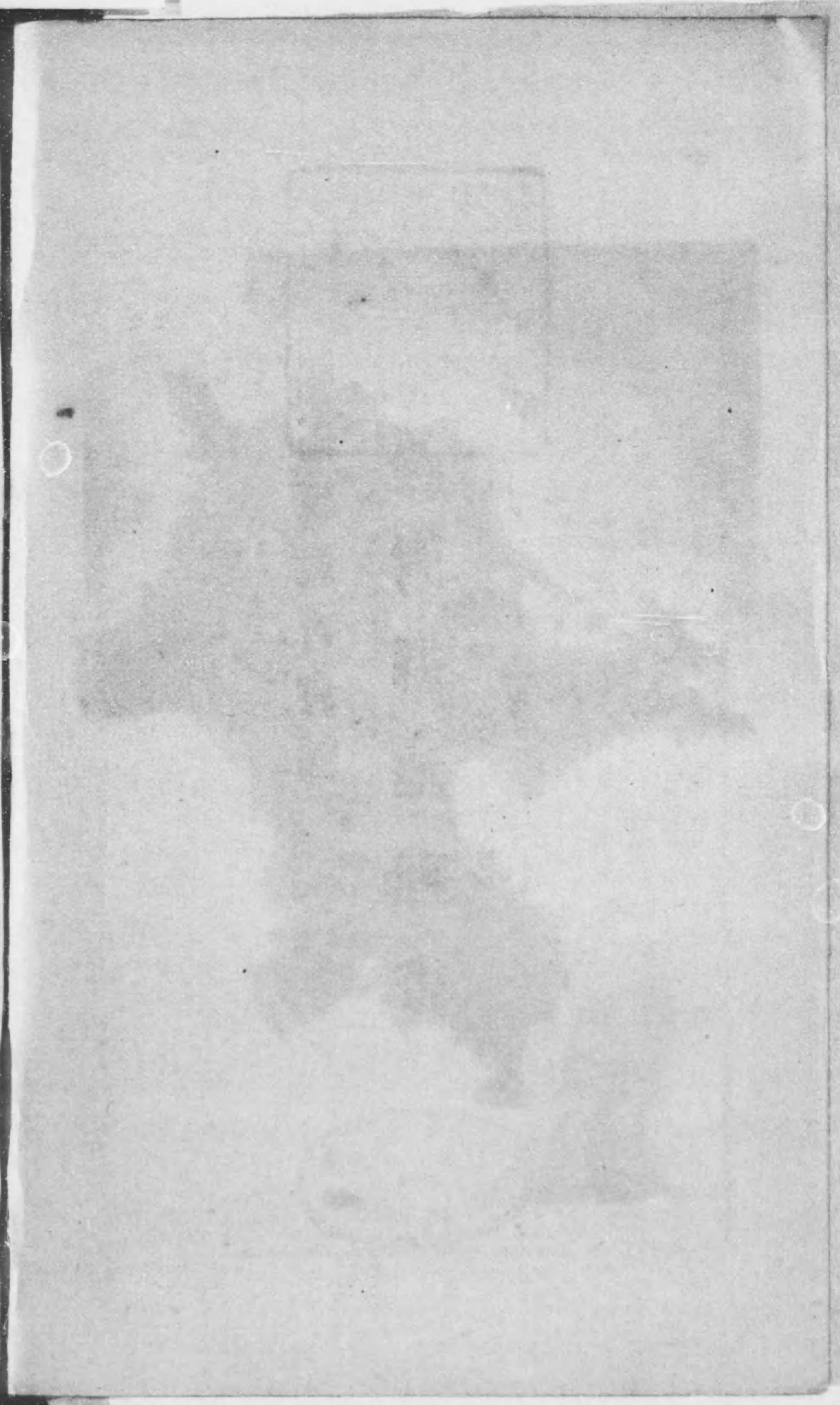
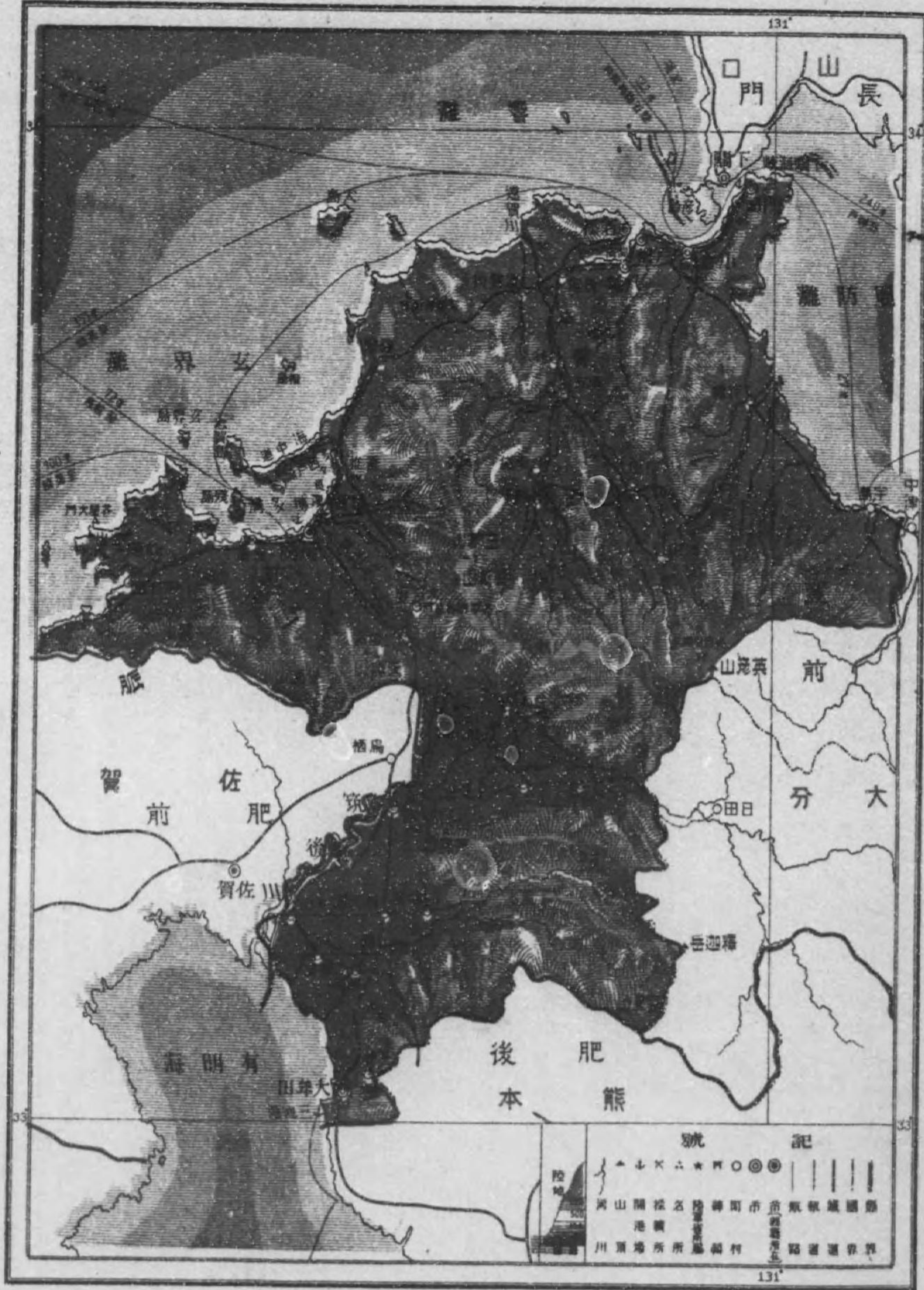


福岡縣教育會編

福岡縣地理書

大正
15. 10. 16
内交

福岡縣地圖

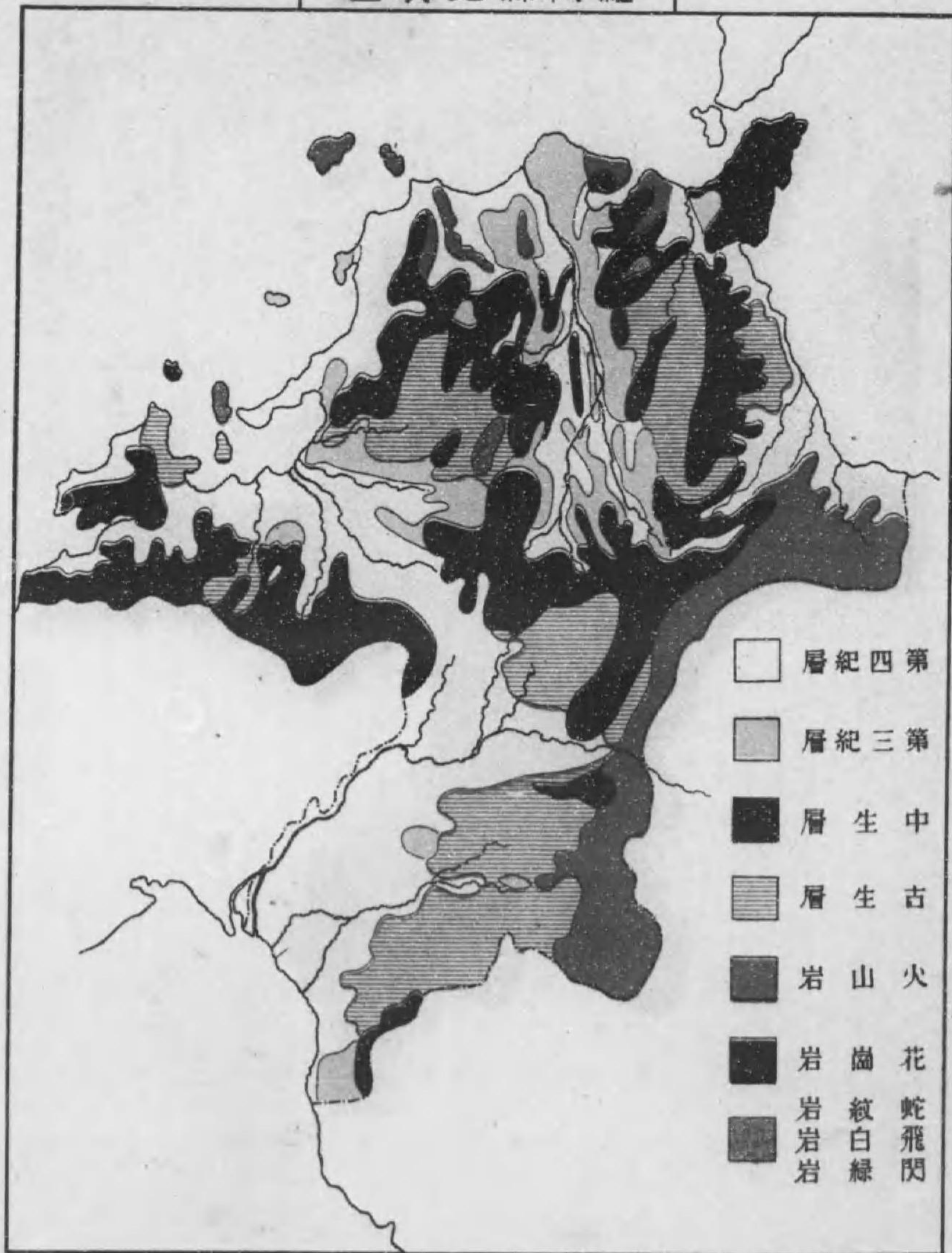


福岡縣地圖



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

福岡縣地質圖



福岡縣地理書

目次

第一	位置	一
第二	面積	四
第三	地勢	六
第四	氣候	五
第五	行政區劃	九
第六	住民	三
第七	教育	六
第八	產業	七
	一、農業	九
	二、畜業	二
	三、林業	三
	四、鑛業	六
	五、水產	二

目次

第九	交通	五〇
	一、陸上の交通	五〇
	二、海上交通	五〇
	三、航空路	五〇
第十	都邑	五七
第十一	沿革	五八

目次終

福岡縣地理書

福岡縣教育會編

第一位置

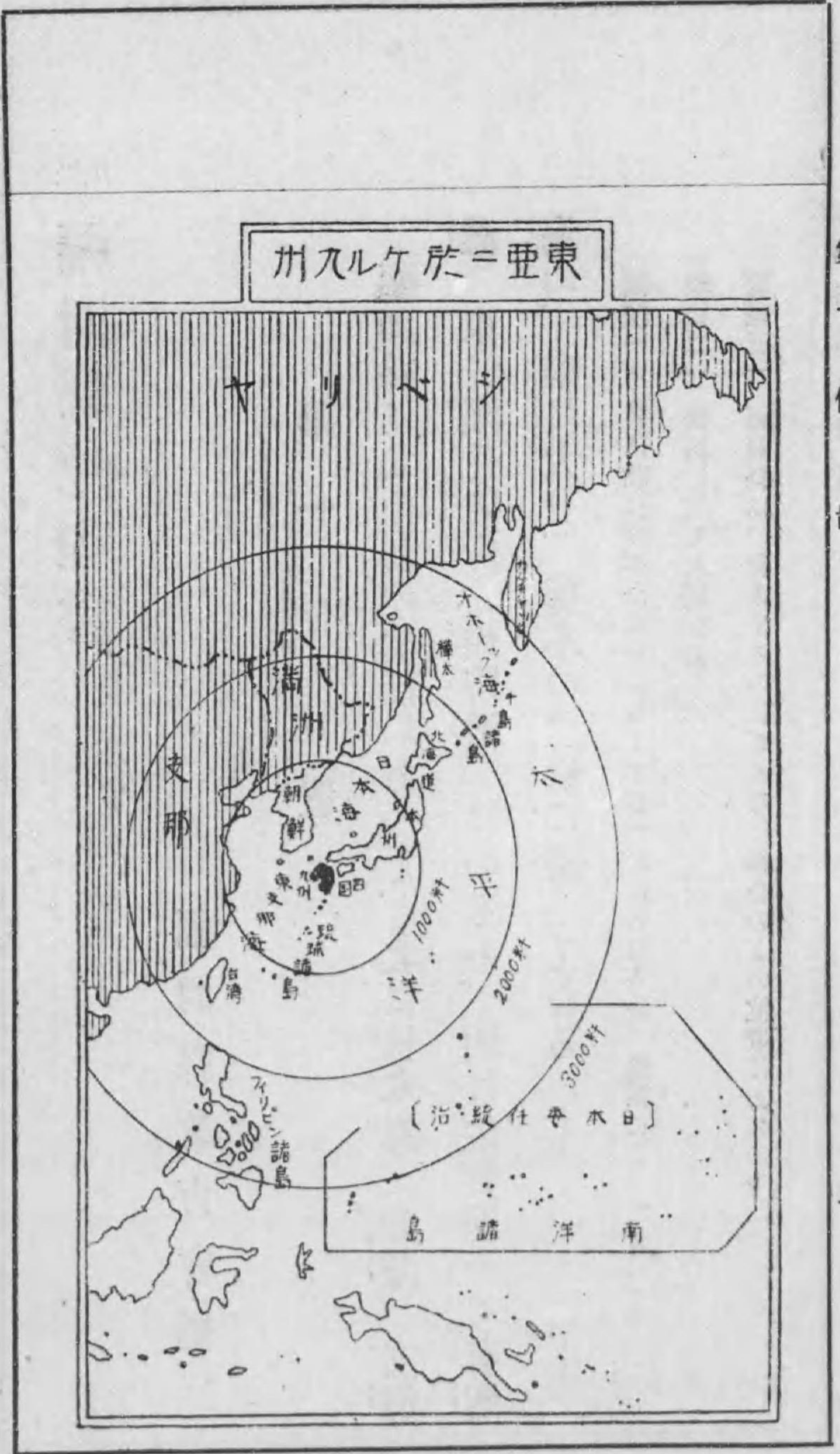
福岡縣は九州島の北部にあつて、北は日本海（響灘、玄海灘）、東は瀬戸内海（周防灘）にのぞみ、西は佐賀縣から有明海に、南は大分、熊本の二縣に隣してゐる。

〔問題一〕 福岡縣は日本全土からみてどのへんにあたるか、地圖によつて考へよ。

〔問題二〕 地圖を見て本縣を云へ。

〔問題三〕 福岡縣は、發達するのにどんなに都合のよい位置にあるか。

州丸ヶ於=亞東



福岡縣の周囲



第二面積

此の縣の面積は、約三百十九方里で九州全体の一割二分位にあたつてゐる。我が國の府縣の中では、二十九番目、九州では五番目の廣さであるから、餘りに廣い縣と云ふ方ではない。

〔問題一〕 みなさんの(市)(町)(村)の面積の何倍位にあたるか。

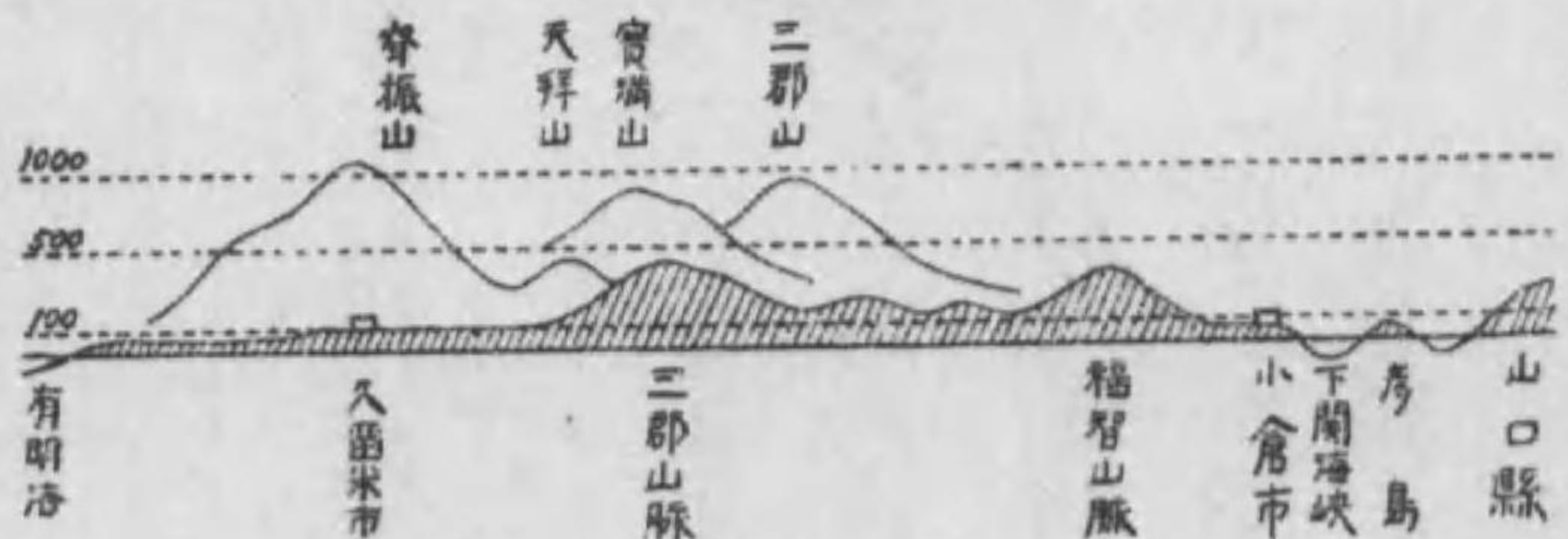
面積の比較



第三地勢

縣の東南部と、中央部の所々は、山地になつてゐるが、その他の部分は平地で、日本海にのぞむ地方は海岸線の出入が多い。

中國山脈のつづきである筑紫山脈は、縣の北部を略東から西にわたつてゐるが、一般に餘り高くない。其の上所々平地で横切られて、いくつもの小さな分水嶺をのこしてゐるので、交通の上にはたいした妨はない。殊に平地で



小倉市から久留米市に至る断面圖

山脈

火山脈

横切られてゐる所は、昔から産業交通上大切な場所、従つて今の鐵道もたいていこの部分を通つてゐる。この山脈にあらんで北方海岸にさうしては白山火山脈、南方には阿蘇火山脈が通つてゐる。

(英彦山神社)



山

阿蘇火山脈は、大分、熊本兩縣の境にせまつて割合に高いので、交通をさまたげてゐることがはなはだしい。主なる山には、東南部大分縣の境に英彦山(二二〇〇米)、西方佐賀

縣との境に背振山(一〇五五米)、雷山(九五五米)、可也山、中央に三郡山(九三六米)、寶満山(八六八米)、がそびえてゐる。



(山也可)

英彦山(一種の火山)は福岡縣第一の高山で、山中には官幣中社英彦山神社がまつつてあつて、地方の人々の信仰が厚く、殊に夏季には參拜登山する人が多い。



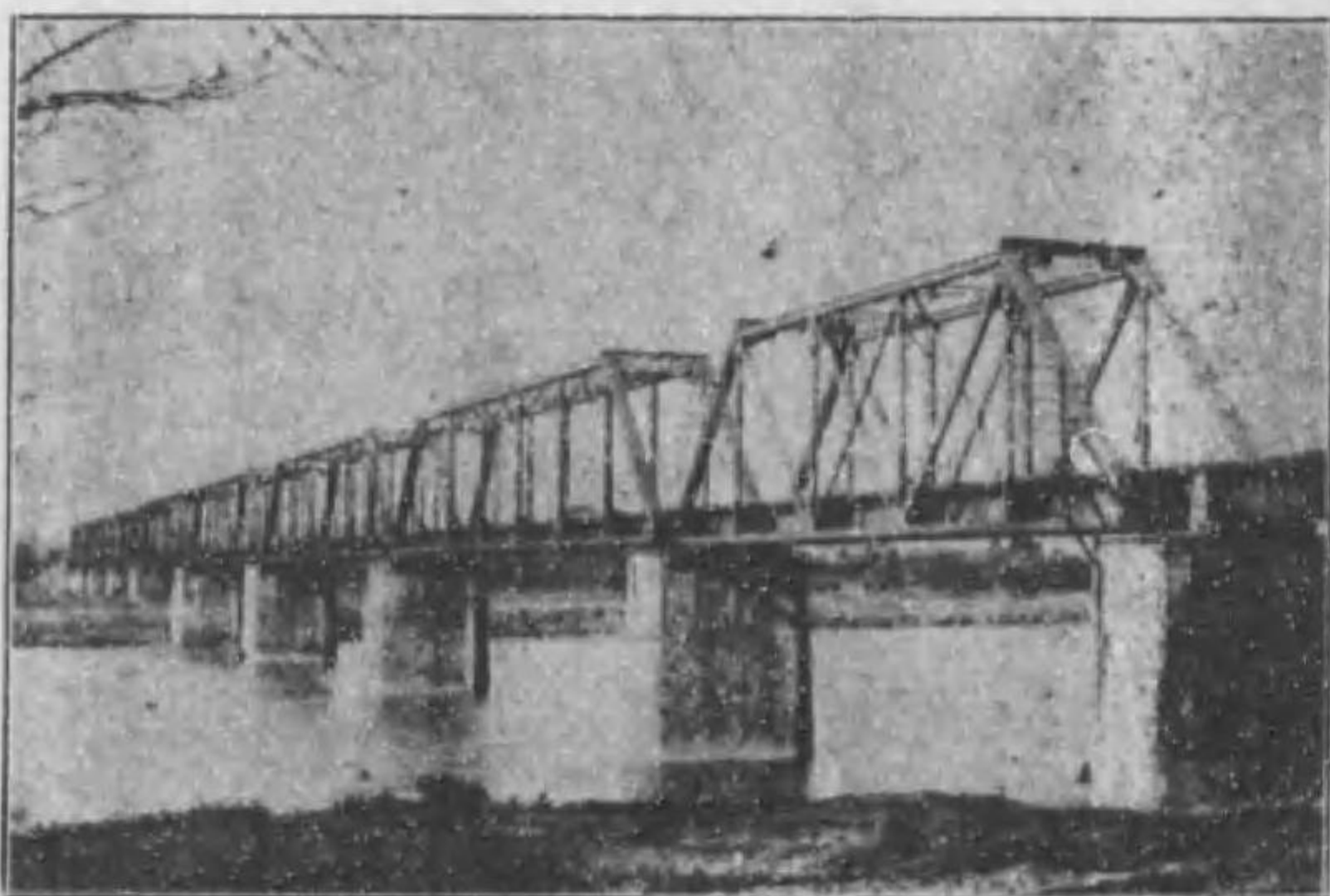
(山雷)

川、平地

寶満山は太宰府の後にあつて、春から秋にかけて福岡市及びその附近の人の登山する者が多い。

可也山は糸島半島の平野にある山で、餘り高くはないが、その形が富士山に似てゐるので小富士(又は筑紫富士)と云はれてゐる。

筑後川はその源を熊本大分の二縣に發し、耳納山脈の北側にそつて西に流れ、久留米市附近から西南に折れて有明海に注いでゐる。



(川後筑)

その本流の長さは三十六里餘、流域の廣さは二百方里に近く、肥沃なる筑紫平野の大部分をなしてゐる。この川は殊に水量に富み、日田盆地（大分縣）迄二十餘里の間は小舟を通ずることが出来る。尙下流は小蒸気が出入して河港の若津はそれがためににぎやつてゐる。

この川の水質は酒を造るのに適するから、下流地方には城島を中心として、一般に醸造業が盛んである。

遠賀川は英彦山附近に源を發し、數多の支流を合せて北に流れ、筑紫山脈を横切つて響灘に注ぐ。その本流の長さは約十六里、七十餘方里の流域をもつてゐる。

この流域地方は、有名な石炭の産地で筑豊炭田と云はれ、その名が高い。

この地方の石炭の一部は、この川と運河とによつて下流に運ばれてゐる。

その外、瀬戸内海斜面の川、博多灣に注いでゐる御笠川、那珂川、有明海に入る矢部川等があつて、その流域には各々交通、産業の發達せる平野をつくつてゐる。

御笠川の上流地方は、昔から南北交通の要路にあたり、歴史上名高い太宰府や水城等があり、その下流にあたる福岡平野は、九州文化の中心地であつて、色々な歴史をもつてゐる。

海岸



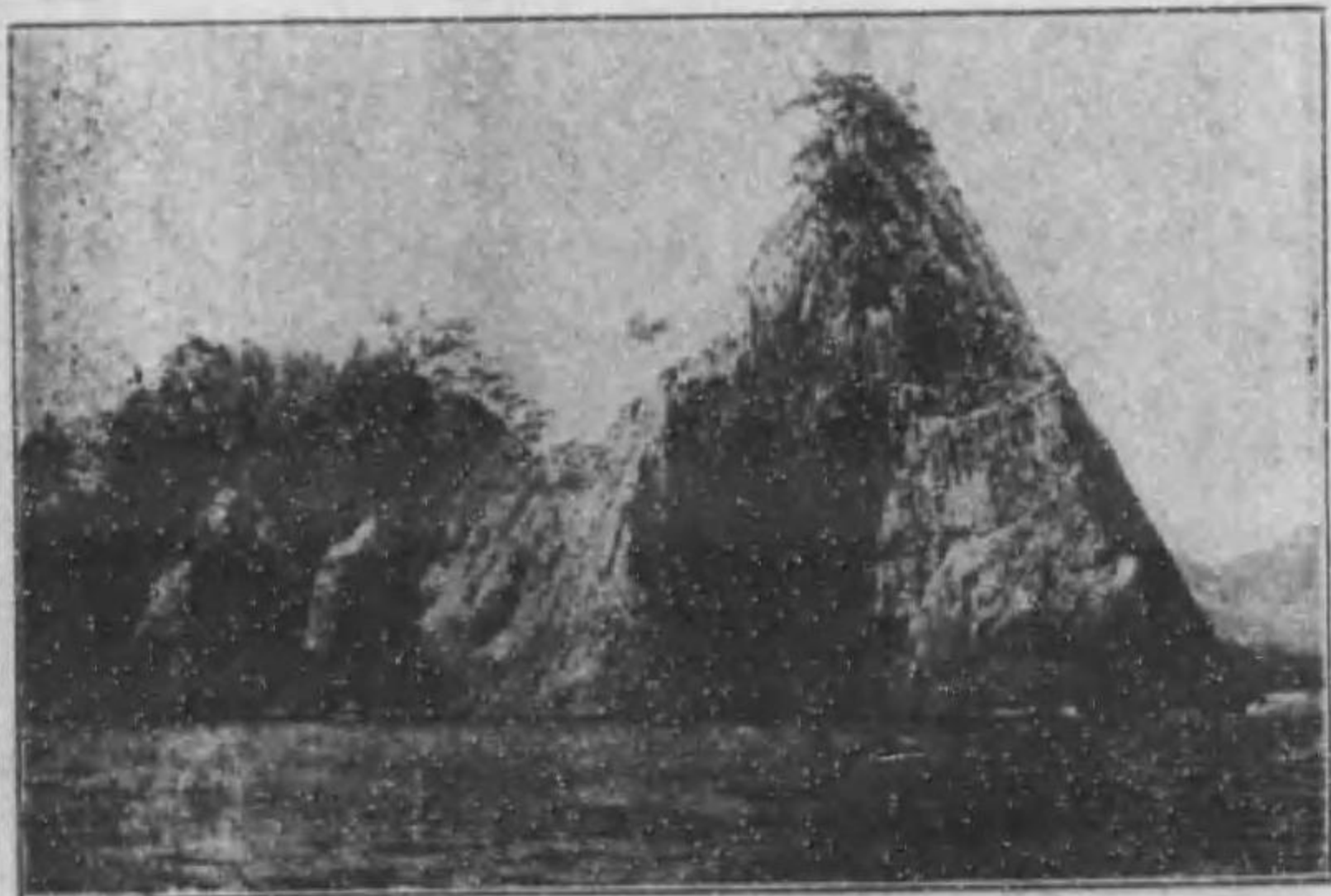
(跡 城 水)

これらの平野は、土地が肥えてゐる上に氣温は一般に温暖で、雨が適當であるから農業が殊に盛んである。

北部地方の海

岸は出入が多く、
企救半島、海中

道、糸島半島等の突出があり、大島、
地ノ島、相ノ島、志賀ノ島、玄海島、
残ノ島の諸島がある。
沿岸に至る所景色よく、中にも海ノ



(門 大 / 巖 芥)



(道 中 / 海)

中道、芥屋ノ大門(糸島半島)は名高く、志賀ノ島、残島は元寇の役の古戰場として世の中の人に知られてゐる。

北部沿岸には、下關海峡に望む門司、洞ノ海の入口にある若松、

博多灣内の博多等の天然の良港灣がある。瀬戸内海及び有明海沿岸は出入が少く且遠淺で、その上有明海は潮の満干の差が大きいのでよい港灣がない。ただ三池港だけは石炭を輸出するために、澤山な費用をかけて

特別な築港をしてゐるので外國船の出入もらくに出来る。
又瀬戸内海沿岸の塩田や有明海の貝や海苔の養殖は其の缺點を一方に利用した産物であらう。

海岸地方(殊に北部)は、交通が便利で原料や動力が得易いので非常に商工業が発達し、従つて都邑の數も多い。

〔問題一〕 山脈の名とその方向を云へ。

〔問題二〕 川の名とその流域の平野の名を云へ。

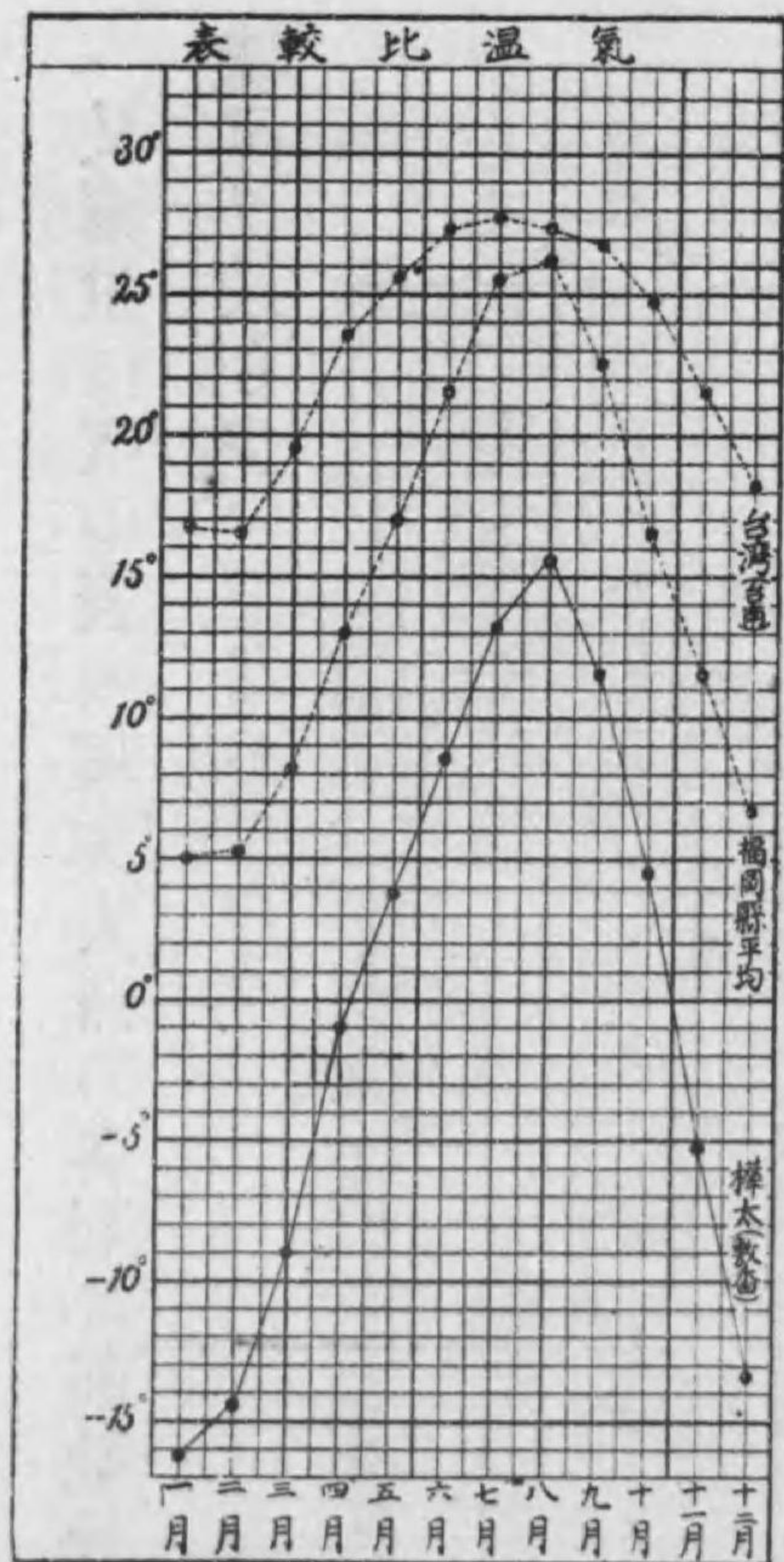
〔問題三〕 筑紫山脈の所々が、平地で横切られてゐることは人間の生活にどんな利益があるか。

〔問題四〕 福岡縣の主なる港を云へ。それがいづれも日本海方面にのみあるわけを考へてみよ。

氣温

第四 氣候

氣温は一般に溫暖で、夏冬や夜晝の温度の差も割合に少く、

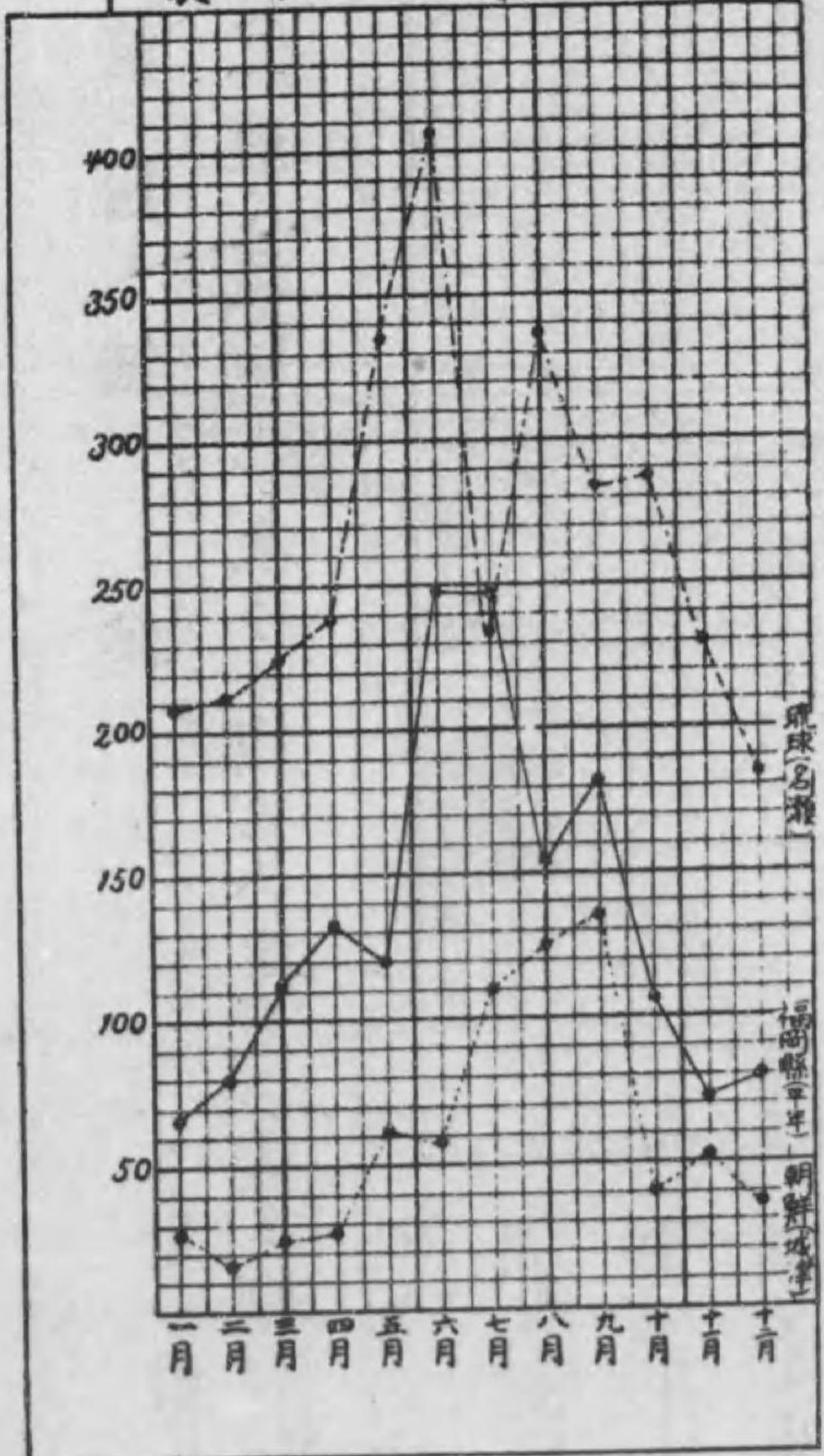


日本の中でも最も住みよい地方の一つである。
臺灣及び樺太の氣温と比較してみると上

雨量

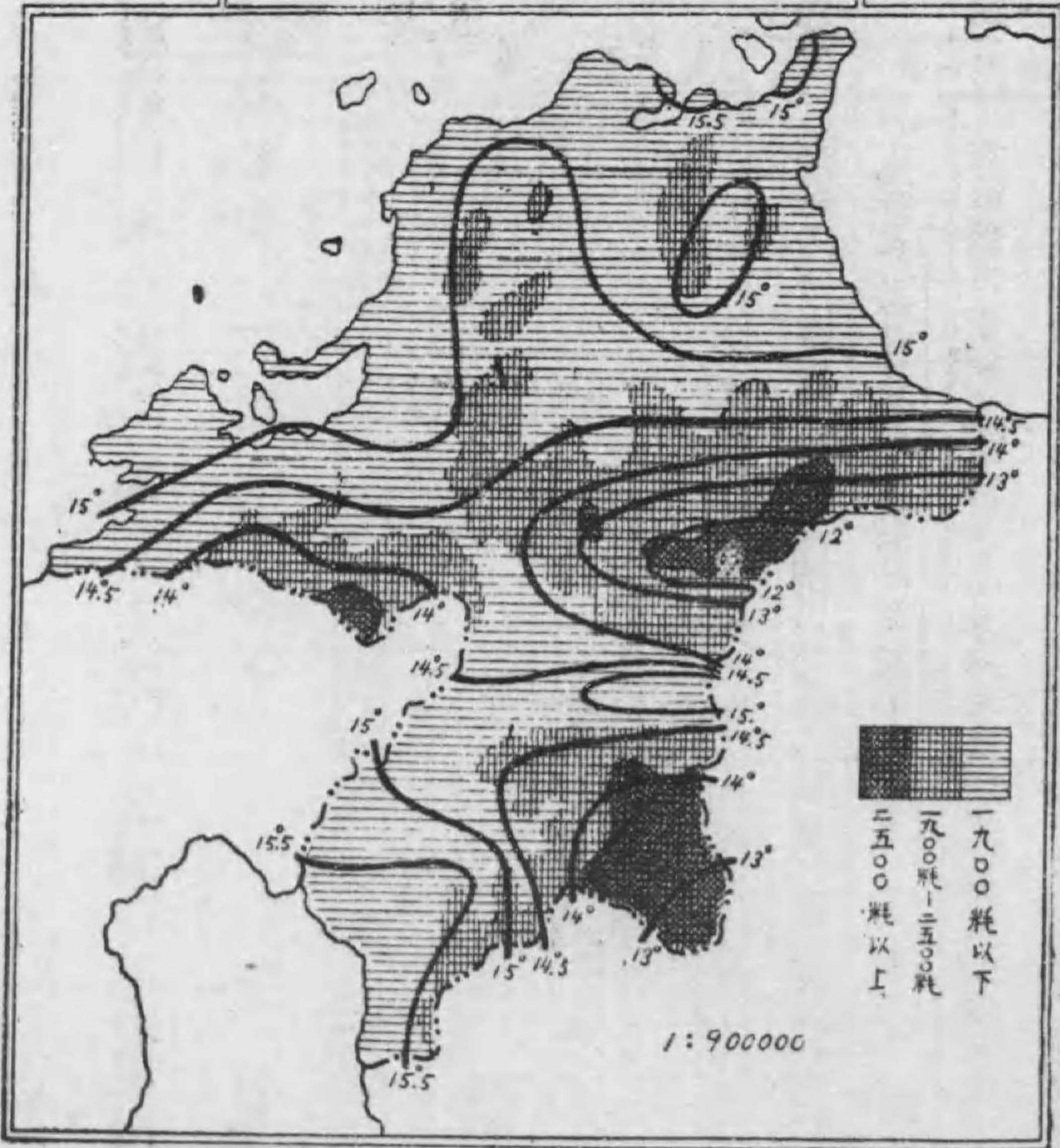
の表のやうである。
又雨量は次の表の如く(大島の各瀬は雨量最も多く、朝鮮の城津は最も少い)なつてゐる。

雨量比較表



風

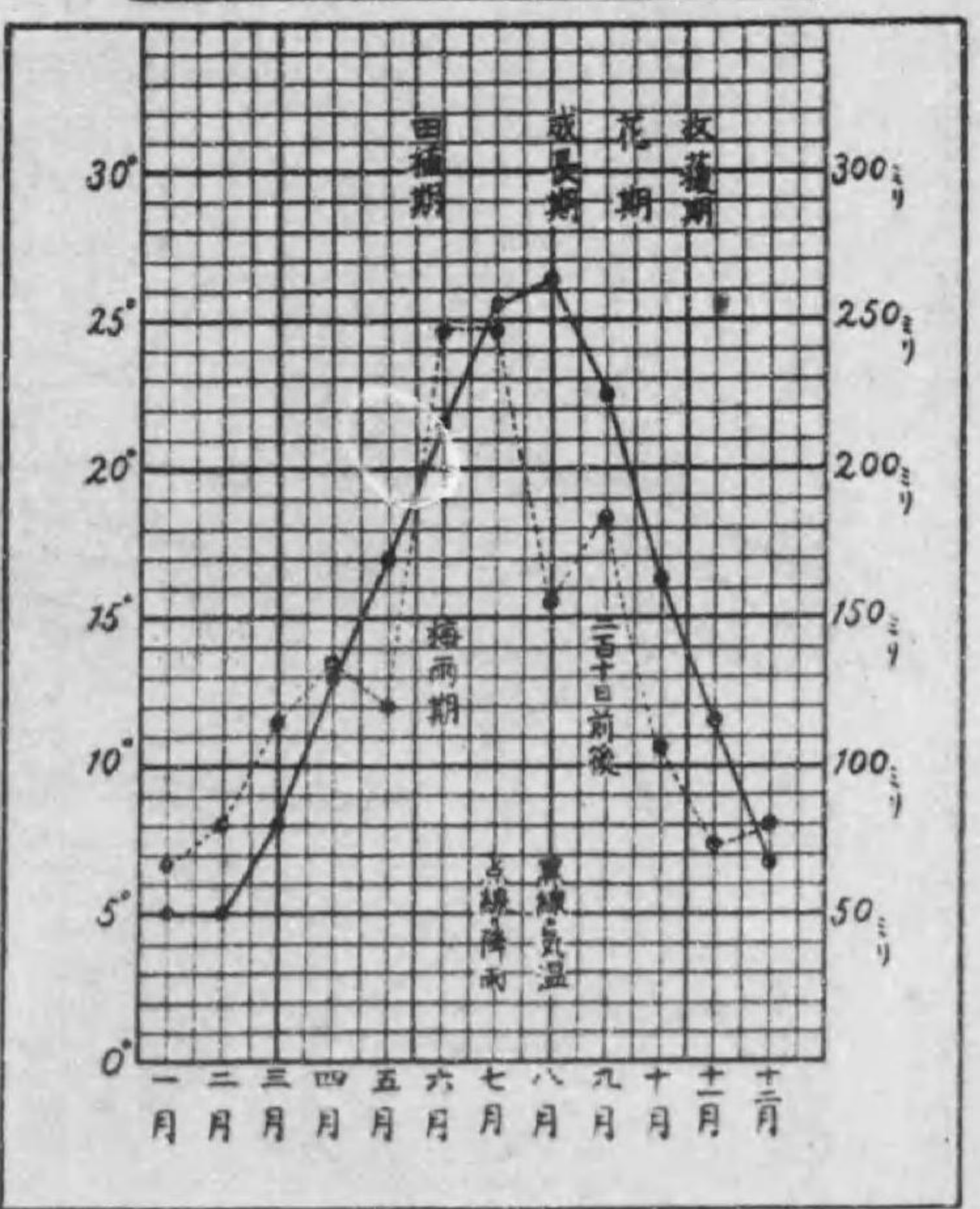
等温線及雨量分布圖



縣下では雨量一般に山地に多く平地に少い。

風は十二月から五月にかけては東南、六月から十一月にかけては西北の風が多

表 量 雨 温 氣



い。
 以上のことから
 見ても本縣の氣候
 は一般に稻作にも
 適してゐると云へ
 る。

〔問題一〕 福岡の五月の氣温は臺灣の何月の氣温に相當するか。又福岡の十一月の氣温は樺太の何月頃の氣温に相當するか。

〔問題二〕 福岡縣の平均氣温は平地と山地とはどちらが高いか。それは何故か。

〔問題三〕 本縣の雨量は山地と平地とはどちらが多いか。それは何故か。

〔問題四〕 前の表を見て本縣の氣候が稻作に適するわけを云へ。

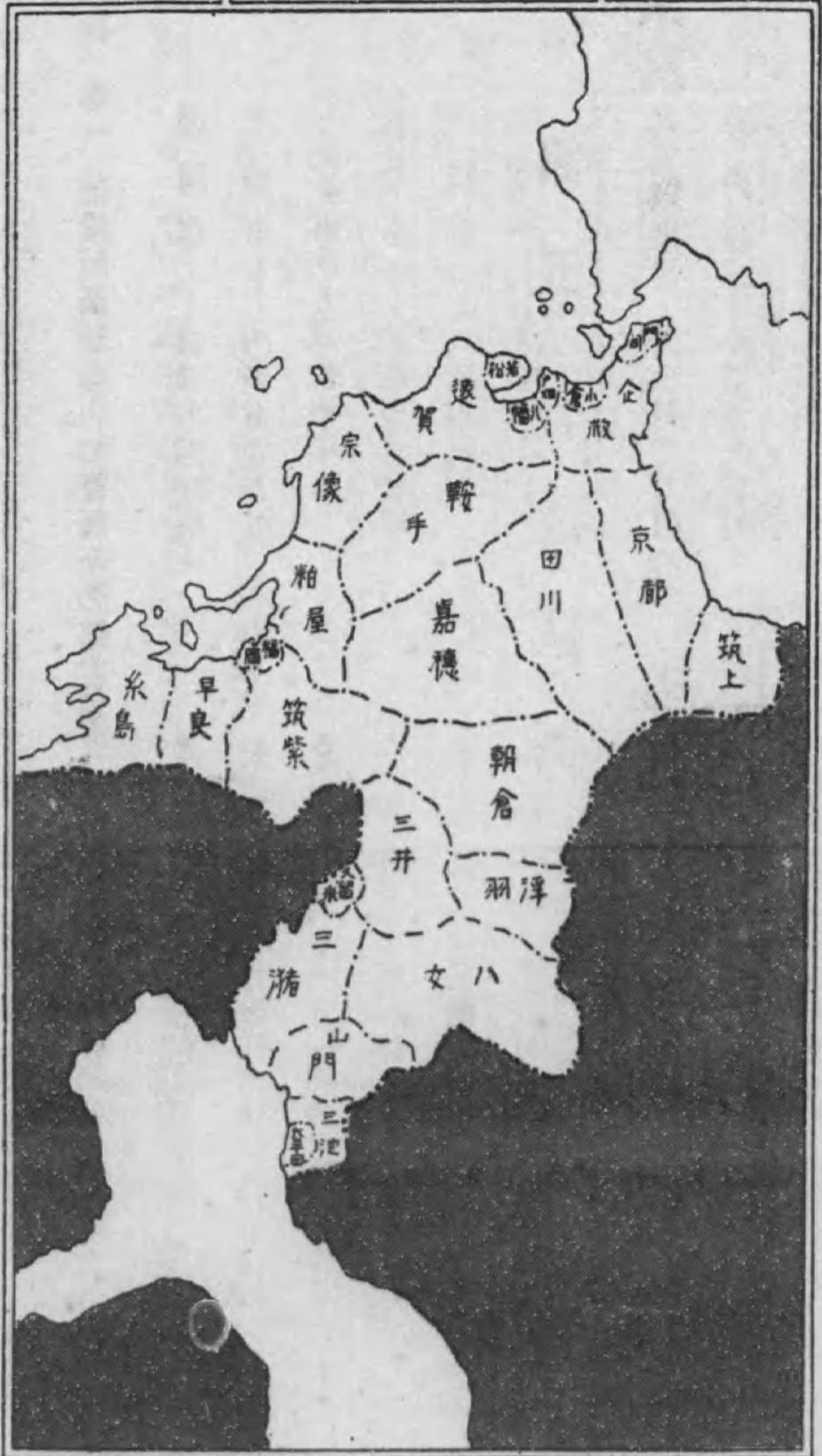
【参考】 これ等の氣候の事についてしらべる測候所が福岡市にある。そこでは氣温と雨量、風向は勿論毎月の氣壓、湿度、最高最低の温度其他氣候上の色々な事について機械や器具を使つてしらべてゐるのである。諸君がよく見る（警察署や港等）暴風雨警報や天氣豫報等は多くここから知らせるのである。

福岡縣内の氣候の事について深く聞きたい人は、こゝに問合せるとすぐにか

第五 行政區劃

本縣は福岡、門司、小倉、若松、戸畑、八幡、久留米、大牟田の八市と企救、京都、築上、鞍手、遠賀、田川、嘉穂、宗像、粕屋、糸島、早良、筑紫、朝倉、浮羽、三井、八女、

行政區劃圖



三潞、山門、三池の十九郡とに分れてゐる。

【参考】市役所及びもとの郡役所の所在地

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 福岡市——福岡市因幡町 | 遠賀郡——折尾町 |
| 門司市——門司市廣石町 | 田川郡——香春町 |
| 小倉市——小倉市室町 | 嘉穂郡——飯塚町 |
| 若松市——若松市老松町 | 宗像郡——東郷村 |
| 八幡市——八幡市通丁 | 粕屋郡——箱崎町 |
| 戸畑市——戸畑市通丁二丁目 | 糸島郡——前原町 |
| 久留米市——久留米市兩替町 | 早良郡——福岡市西新町 |
| 大牟田市——大牟田市有明町 | 筑紫郡——那珂村 <small>ザツシロウノクマ</small> 餉隈 |
| 企救郡——小倉市馬備町 | 朝倉郡——甘木町 |
| 京都郡——行橋町 | 浮羽郡——吉井町 |
| 鞍手郡——直方町 | 三井郡——北野町 |

八女郡——福島町
 三潯郡——大川町
 筑上郡——八屋町

山門郡——柳川町
 三池郡——大牟田市東泉

〔問題一〕 市や郡の名を云へ。

第六 住民

本縣は面積の割合に人口が多い。大正十四年十月一日の國勢調査の結果によると現住人口は約二百三十萬人で一戸平均五人、一方里に付き七千二百十二人(全國で四番目)すんでゐる事になつて居る。

本縣が産業發達し、殊に商、工、鑛業の盛んになるにつれ

人口

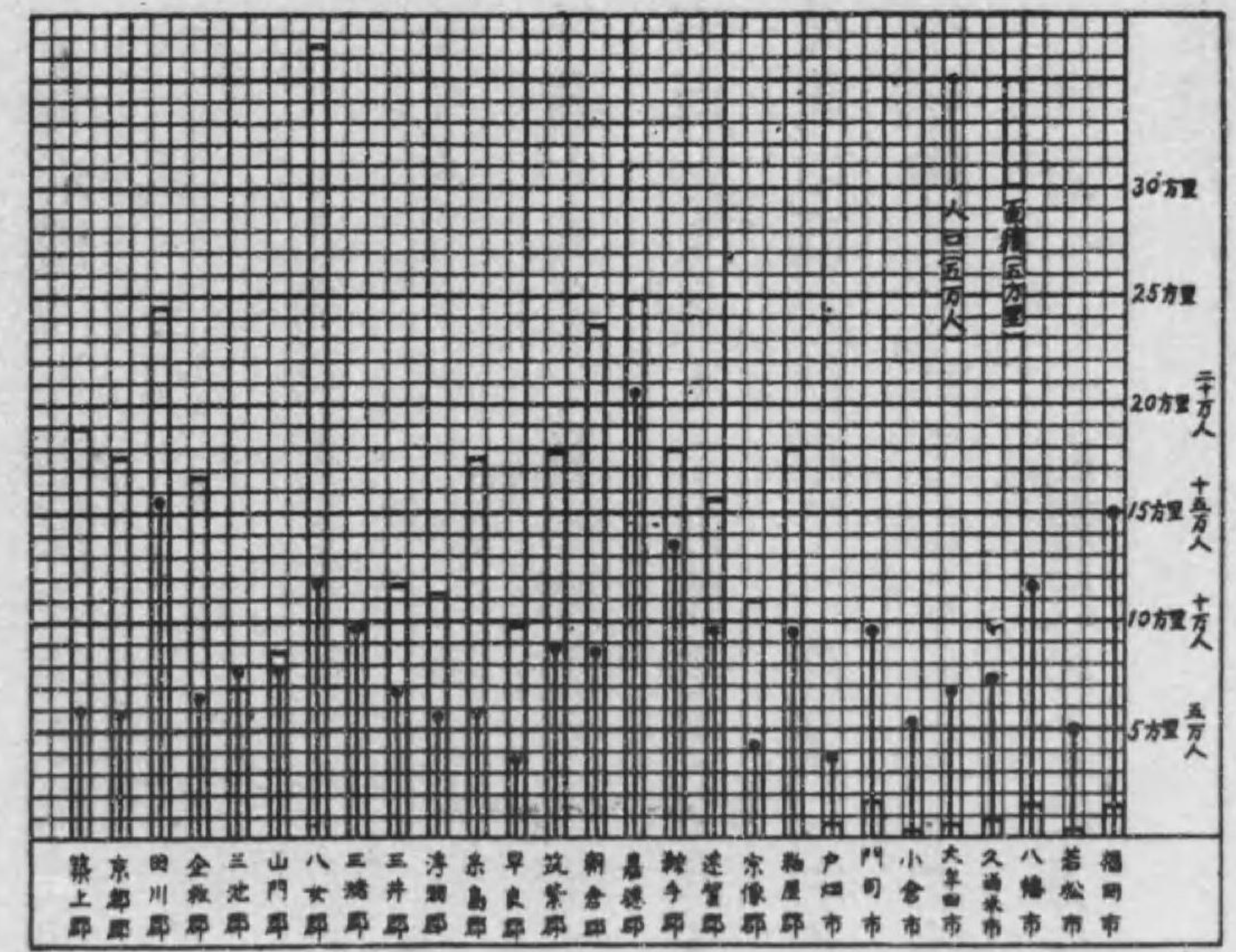
て、他府縣及び朝鮮地方から出稼に來て居る者が八十萬餘人りもある。

縣内の人々は氣候地勢の關係もあつて一般



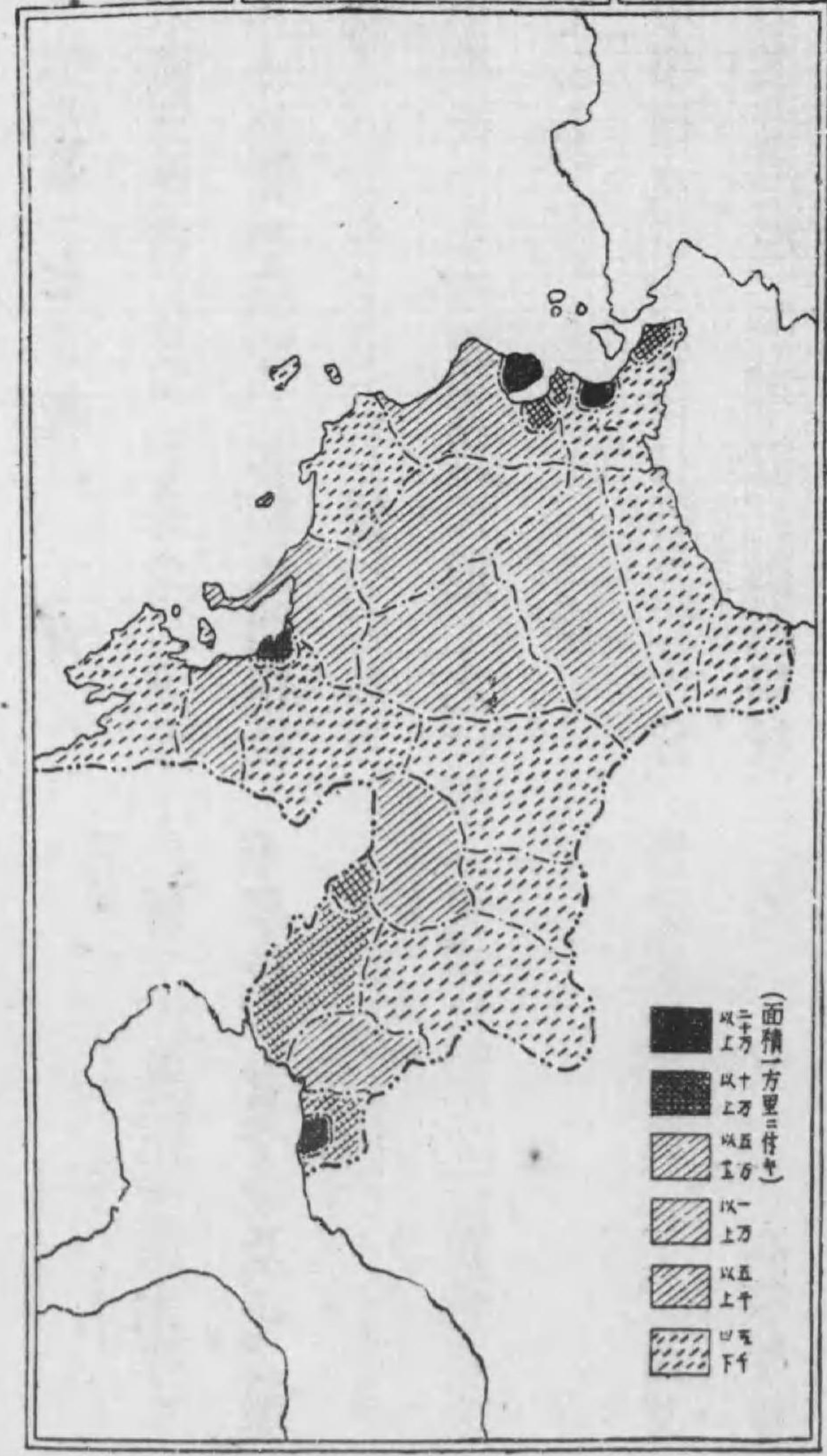
に性質が淡泊で且つ剛毅な所があり、又一面すばしこく、どの方面から見ても九州男子を代表してゐる様に思はれる。又此の縣が日本でも産業、教育の最も進歩發達した地方の一つと稱せられてゐるのも、勿論地の利のよろしきを得てゐるとは云へ、一面縣民のこの方面に對する着眼、努力の賜物に相違ない。

表較比口人積面の市都各



- 〔問題一〕 面積の割合に人口がなせ多
いか。
- 〔問題二〕 なせ他の地方から多くの人
が来たか。
- 〔問題三〕 どんな地方が密度が大でど
んな地方は密度が小か。
- 〔問題四〕 本縣の人々の氣質のよい所
とわるい所とを云へ。

圖度圍口八縣岡福



第七 教育

本縣は教育に於ても非常に進歩した縣で、九州帝國大學をはじめ、高等學校、各種専門學校、中學校、女學校及び實業學校にいたるまでよく備つてゐる。

小學校はその數五百に近く之に學ぶ兒童は三十三萬餘に及んでゐる。

中學校及び女學校は各々二十餘、實業學校（農、工、商其他の職業學校）三十餘、師範學校三（男一、女一）、高等學校

一、大學一（醫、工、農、法文の各學部）専門學校三校明治專門學校
女子專門學校
齒科醫學專門學校

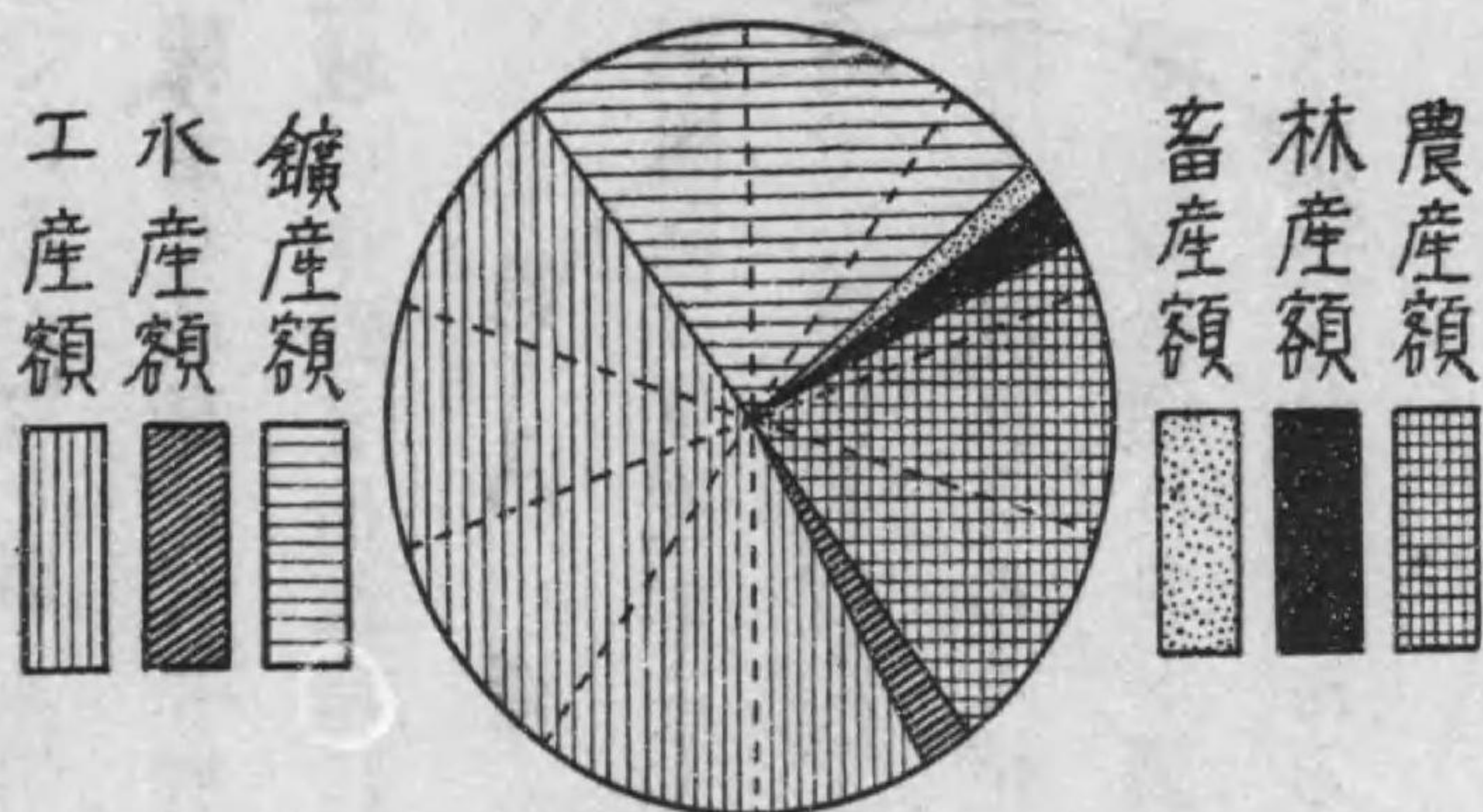
等であるが、その入學志願者は年と共に多くなり、従つてその競争もはなはだしい。

第八 産業

福岡縣は位置がよく、その上肥沃な平野が廣く、氣候も亦適當で天産にも富んでゐるから、色々な産業が盛んで、産業王國と云はれてゐる位である。

殊に鑛産額は我が國第一位で、その外、農産額、工産額も本邦屈指となつてゐる。

表 較 比 額 産



科目	本縣産額	順位
農	二七〇五 <small>千円</small>	五
林	七五〇二	四
畜	七三九一	一〇
鑛	二七八七	一
水	九六〇一	七
工	二六二〇	六
合計	五二四四	五

第一	第二	第三	第四	第五
北海道	茨城	長野	新潟	福岡
秋田	田代	兵庫	宮崎	茨城
東京	愛知	大阪	千葉	兵庫
福	岡	秋	田	北海道
新	潟	福	島	
静	岡	山	口	長
崎	北	海	道	千
葉				

【参考】

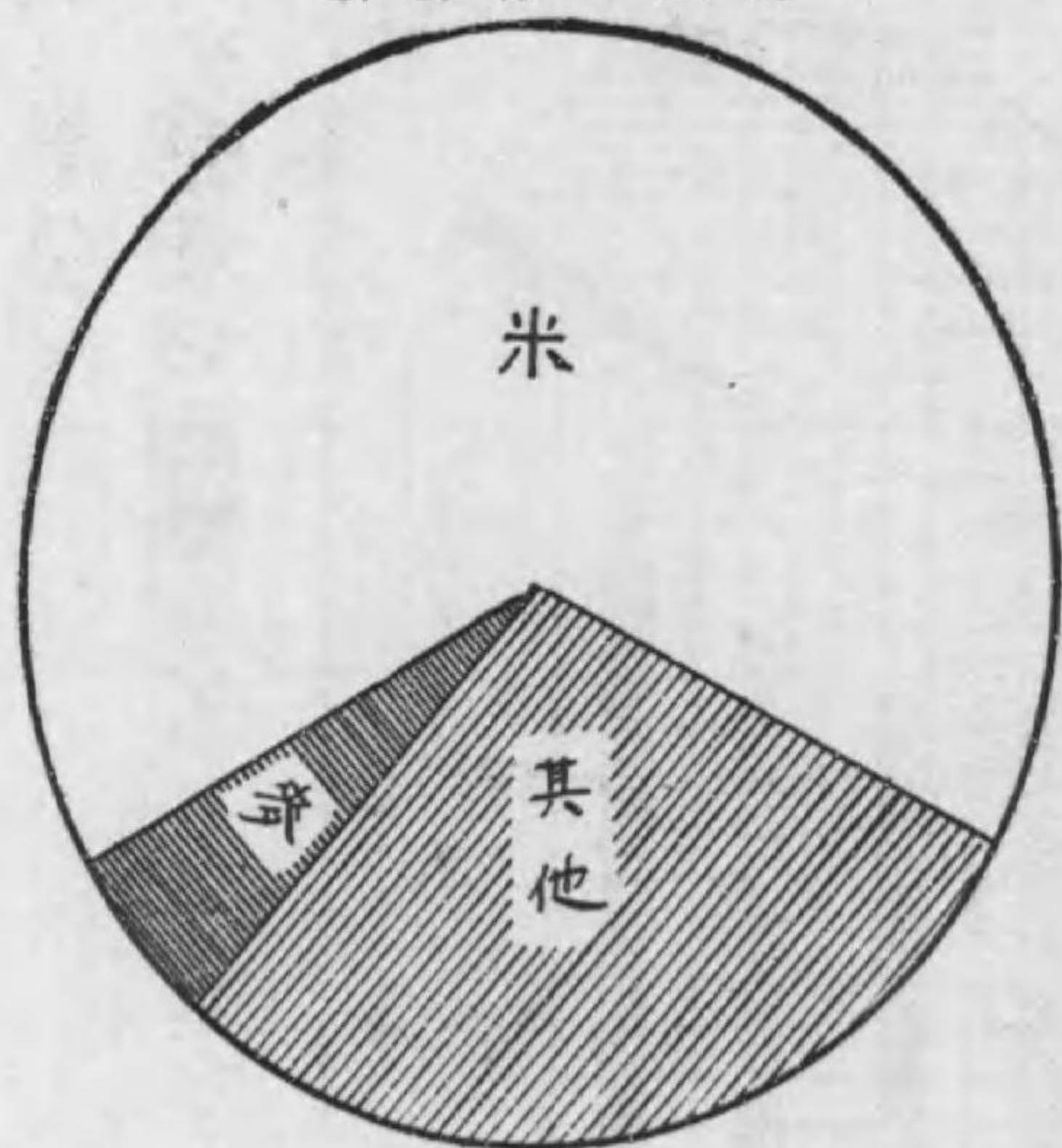
一、農 業

本縣は筑紫の大平野の外、筑豊の平野、福岡の平野、今川流域の平野其他海岸にも平地があつて、耕地面積(特に水田)

が割合に廣く、その上土地がよく肥え、氣温及び雨量も適當であるから農業が盛んで、米の産額は本邦第三位で、其の上品質もよい。

殊に二毛作が行はれるので、麥、菜種などもたくさ

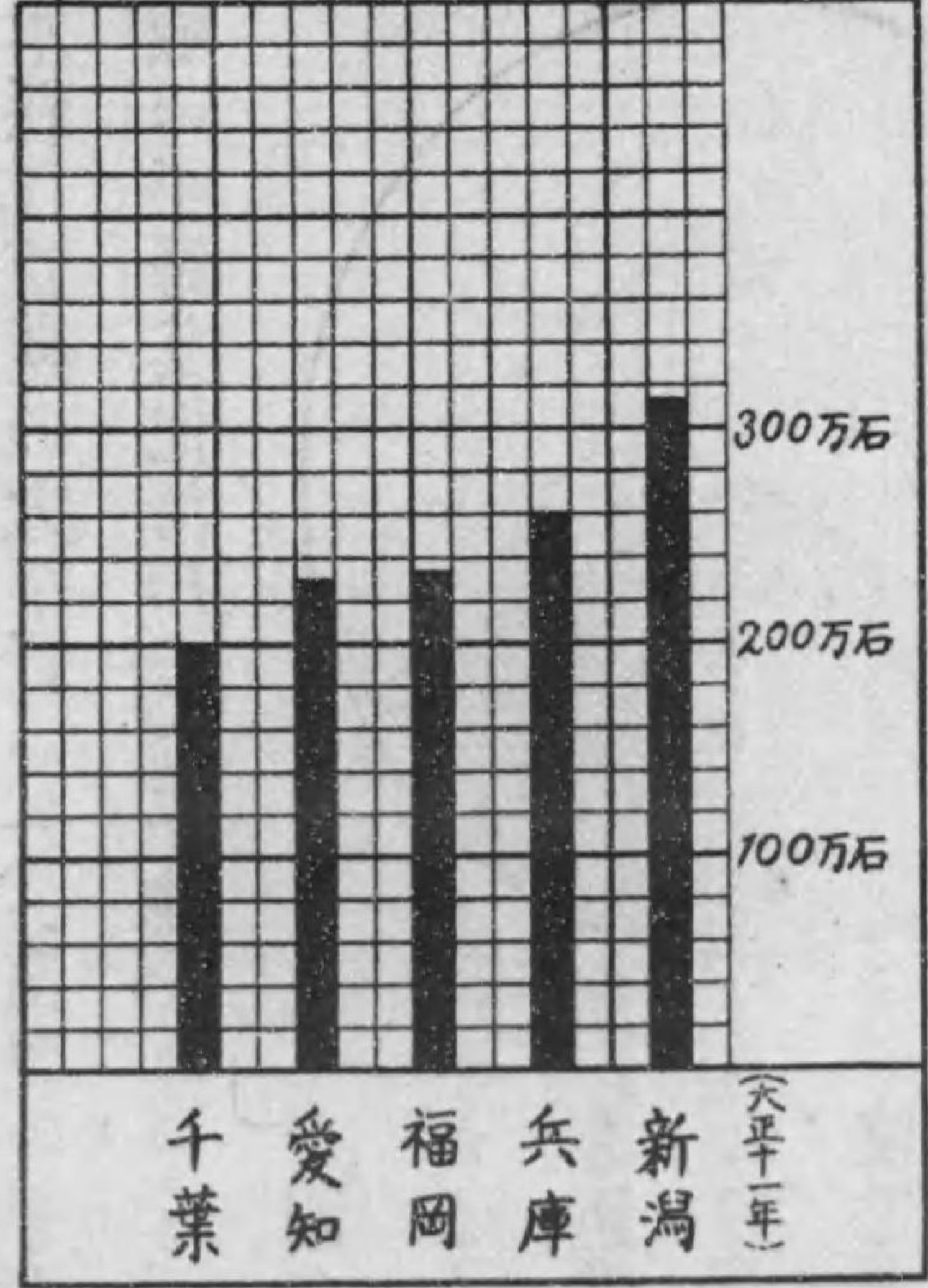
額 價 總 物 産 農



んとれる。

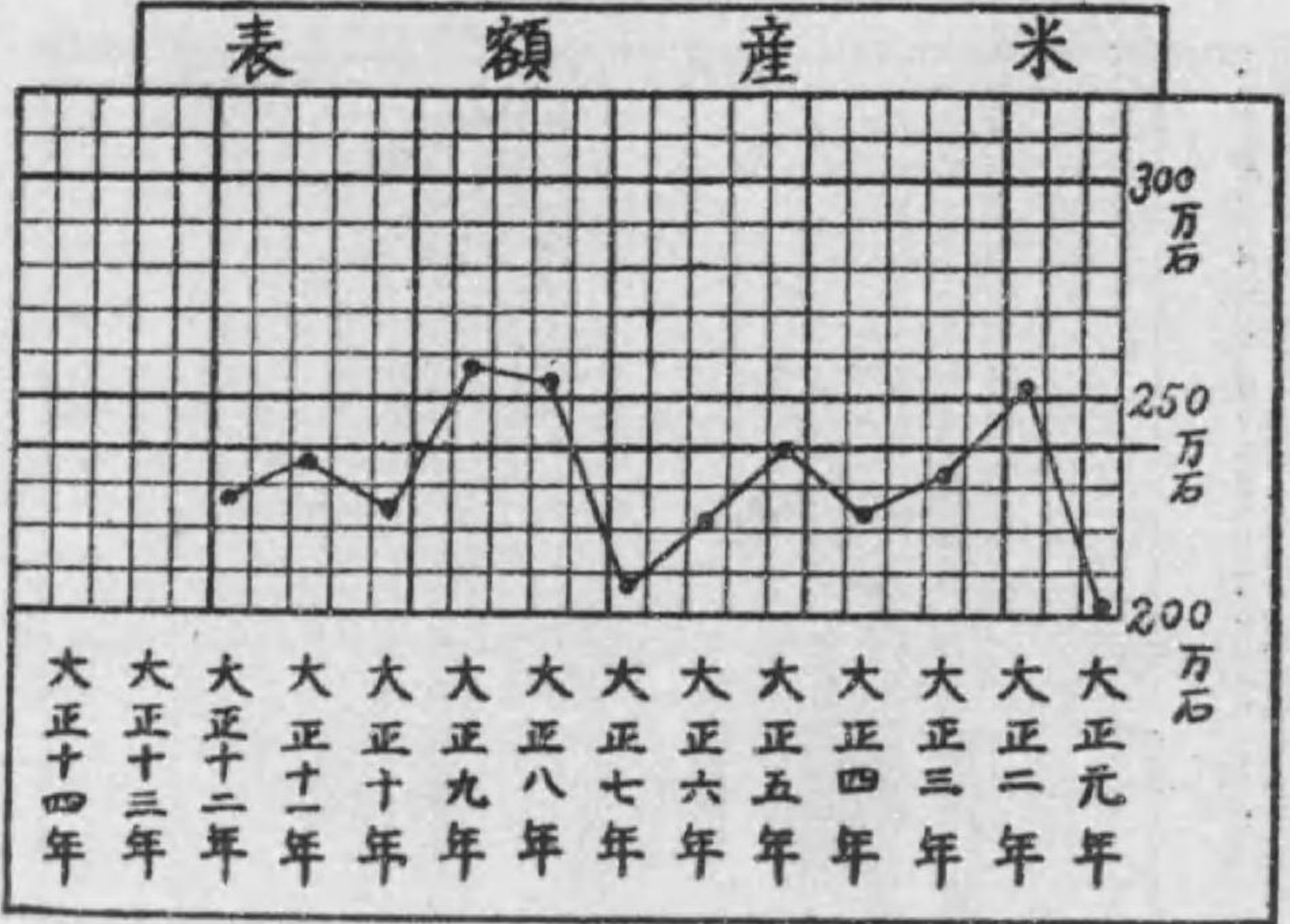
又野菜や果物の類も出来るし、櫛、蘭等の特産物にも名高

米の五大産地と産額の比較



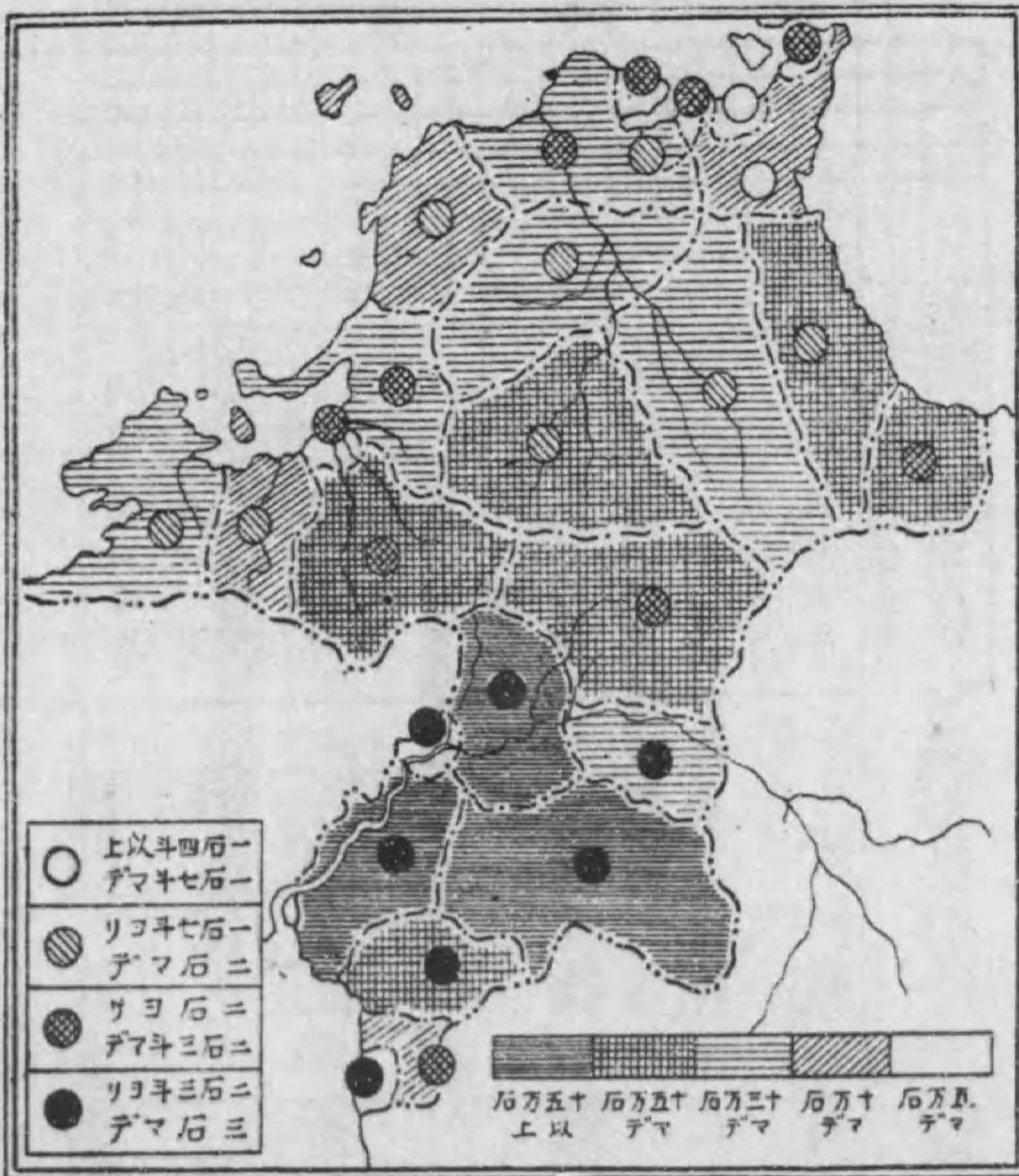
麦は主として大麦、小麦、裸麦等で、一反歩の取れ高の多

い。尚米の一反歩からの取れ高の割合に多いのは、矢部川流域で、これは主として気候と土質とに關係がある。



いのは、縣の南部（三瀧、久留米、山門、八女等）で、全産額は本邦第八位となつてゐる。小麦は麥粉とし、裸麥は米とまぜてたべる。農産物の總價額は、全國第五位で、九州では勿論第一位である。その他、年産額三十萬圓以上の農産物とその主な産物とは後の圖のやうである。

全體並に一反歩收獲率高分布圖



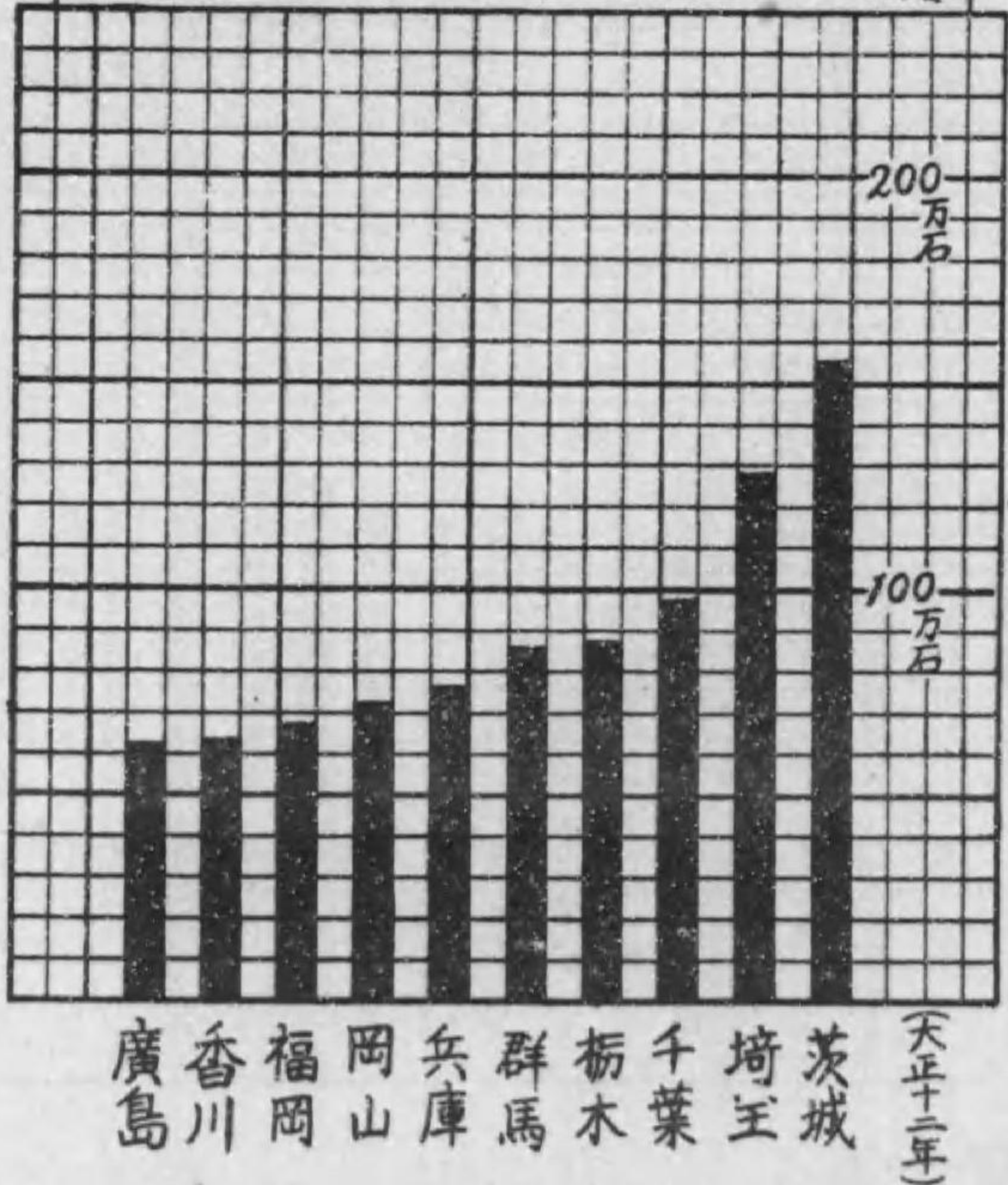
いまのべたやうに本縣が農業が盛んでその産額も多いのは、主として、一、平野（特に耕地面積）が廣く比較的沖積層で

あること。

二、氣候が作物の成育に適してゐる

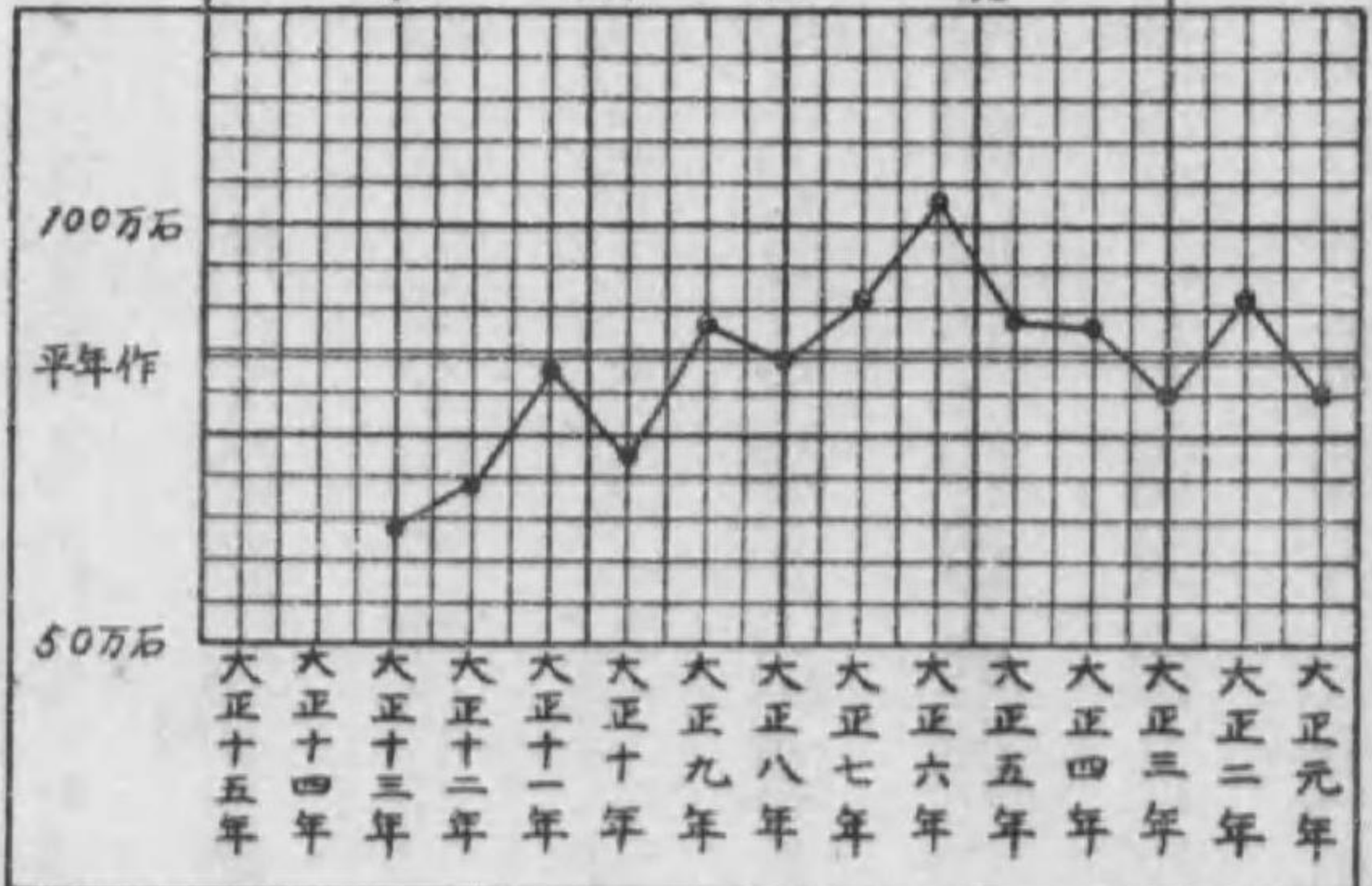
こと、殊に稻の結實期に於ける日照と氣温の度合がよい事。

麦の十大産地とその産額比較

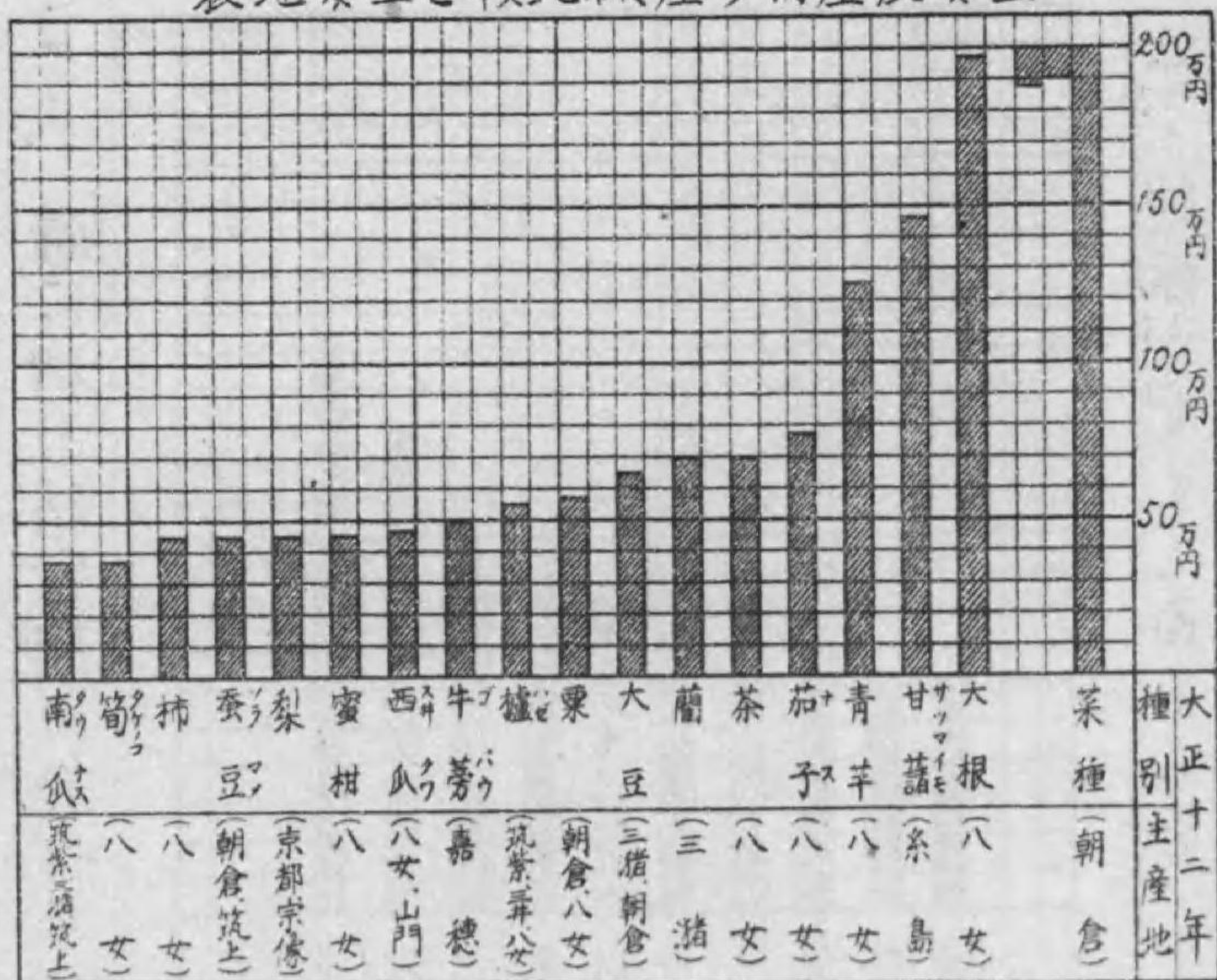


三、地味が肥えてゐること。

麦産額表



表地要主と較比額産の物産農要重



四、人口が多く十分に
 人手を得られること
 五、満州をひかへ肥料
 を求むるのに便利で
 あること。
 などをあげる事が出来る。
 筑紫平野での農産物の
 集散地は、久留米市及び
 筑後川の下流地方（大川
 町柳川町等）である。

- 〔問題一〕 本縣はなせ米がよくとれるか。
- 〔問題二〕 本縣の農産物の主なるものを云へ。
- 〔問題三〕 本縣の農業特産物は何か。
- 〔問題四〕 本縣の農業の發達してゐるのはなせか。

二、林業、牧畜

本縣は牧畜に適する所が少く、又山地も割合にせまいので、
 牧畜、林業は盛んでない。

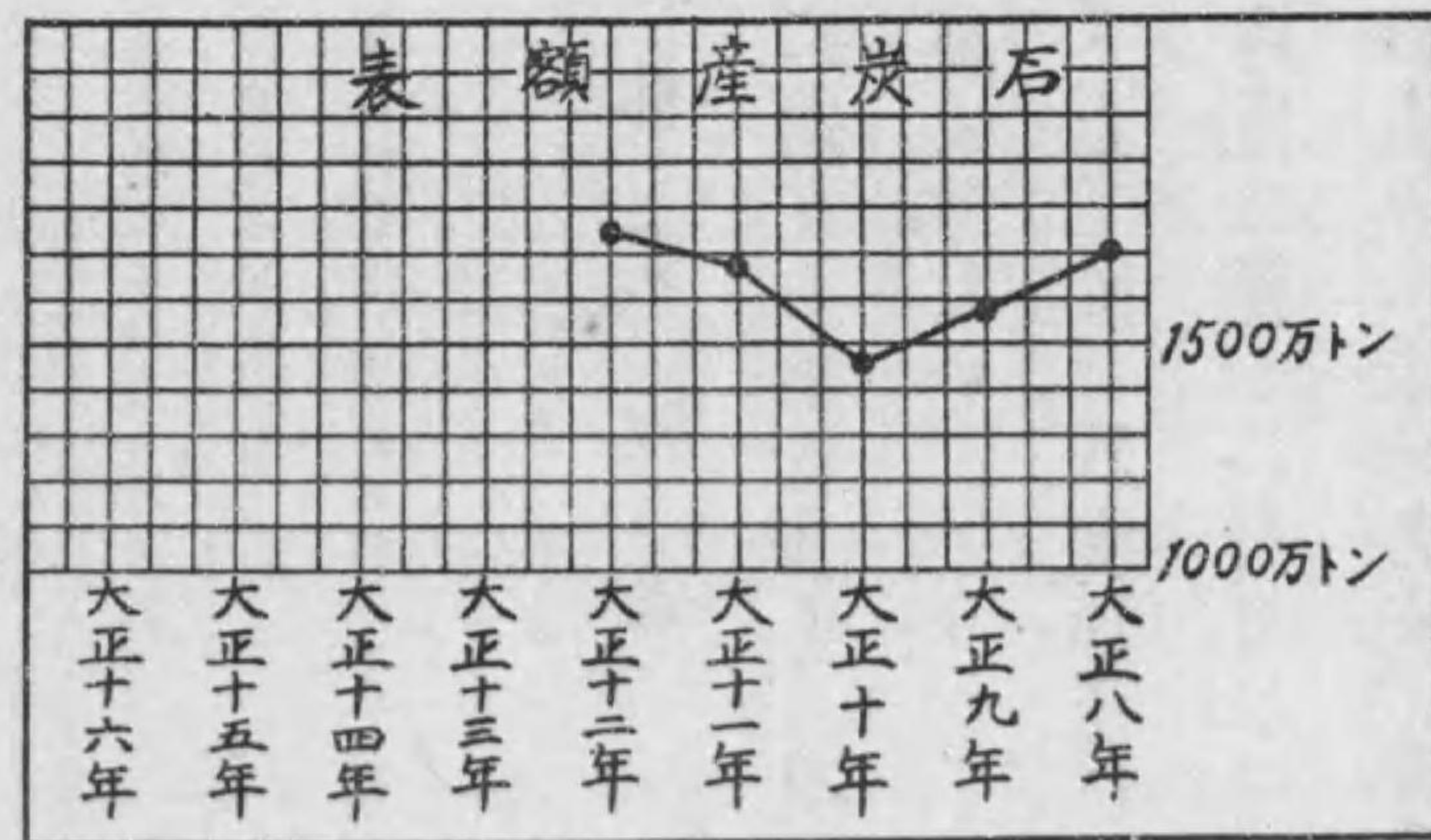
ただ林業地としては、八女郡及び嘉穂郡等の山間部で、牧
 畜は各都會地附近に僅かに行はれてゐる位である。

これは都會の人々の求める肉、牛乳等を供給する爲である。

較比の額産炭石
(年九正大) 噸萬千三約額産年の炭石の國が我

長門縣	佐賀縣	福岡縣	九州地方	其他地方
-----	-----	-----	------	------

額産炭石の年近の縣岡福



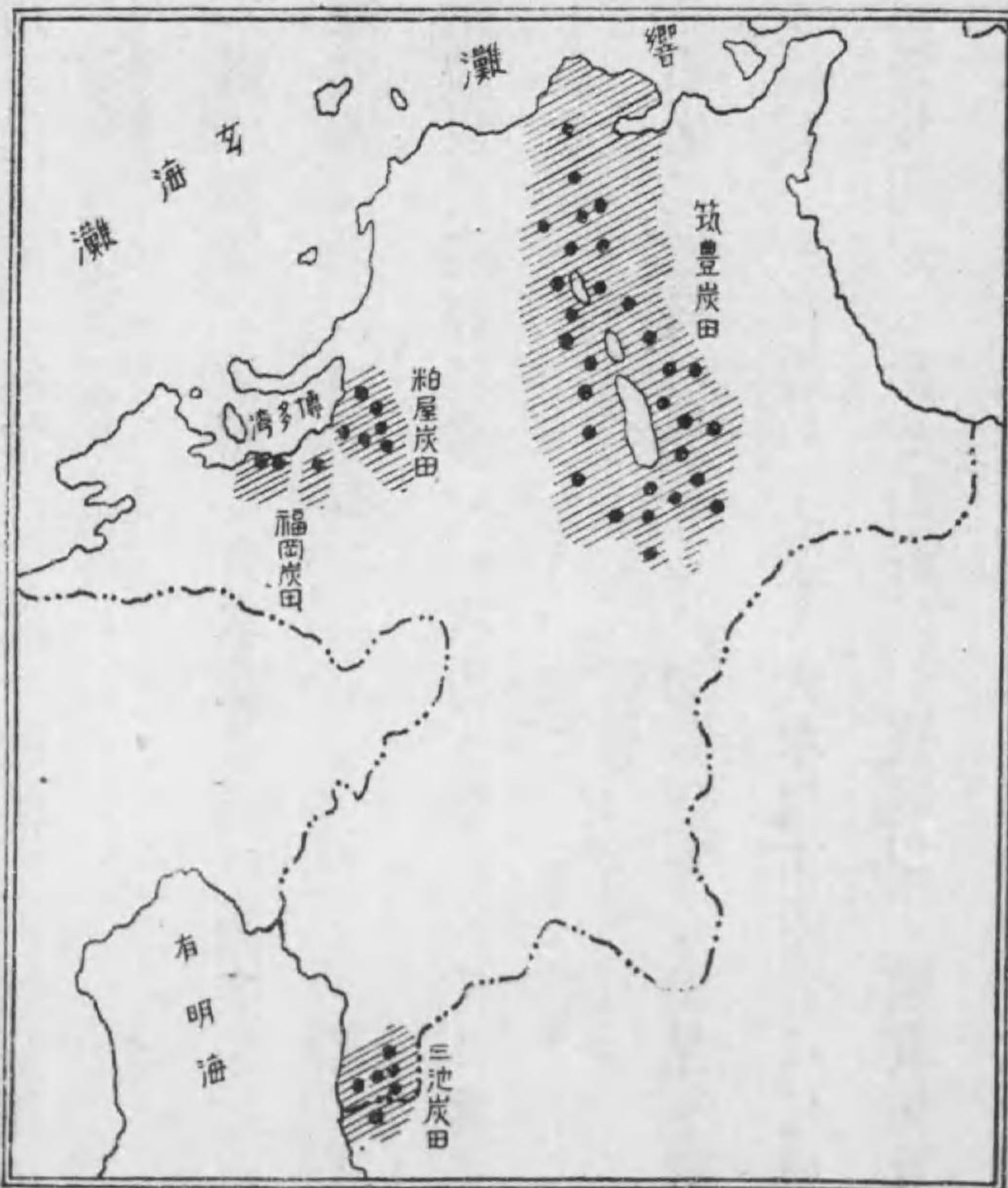
〔問題一〕 林業、牧畜は何故發達しないか。

三、鑛業

本縣の鑛産額は本邦第一位で、その大部分は石炭である。

その主な産地は、遠賀川流域の筑豊炭田、博多灣沿岸の粕屋炭田

圖 布 分 の 田 炭



及び福岡炭田、有明海沿岸の三池炭田である。その中でも筑豊炭田と三池炭田とは殊に名高く、筑豊炭田の三井

田川、大ノ浦、峰池、二瀬、明治、三池炭田の萬田等は日本でも有數の大炭坑である。

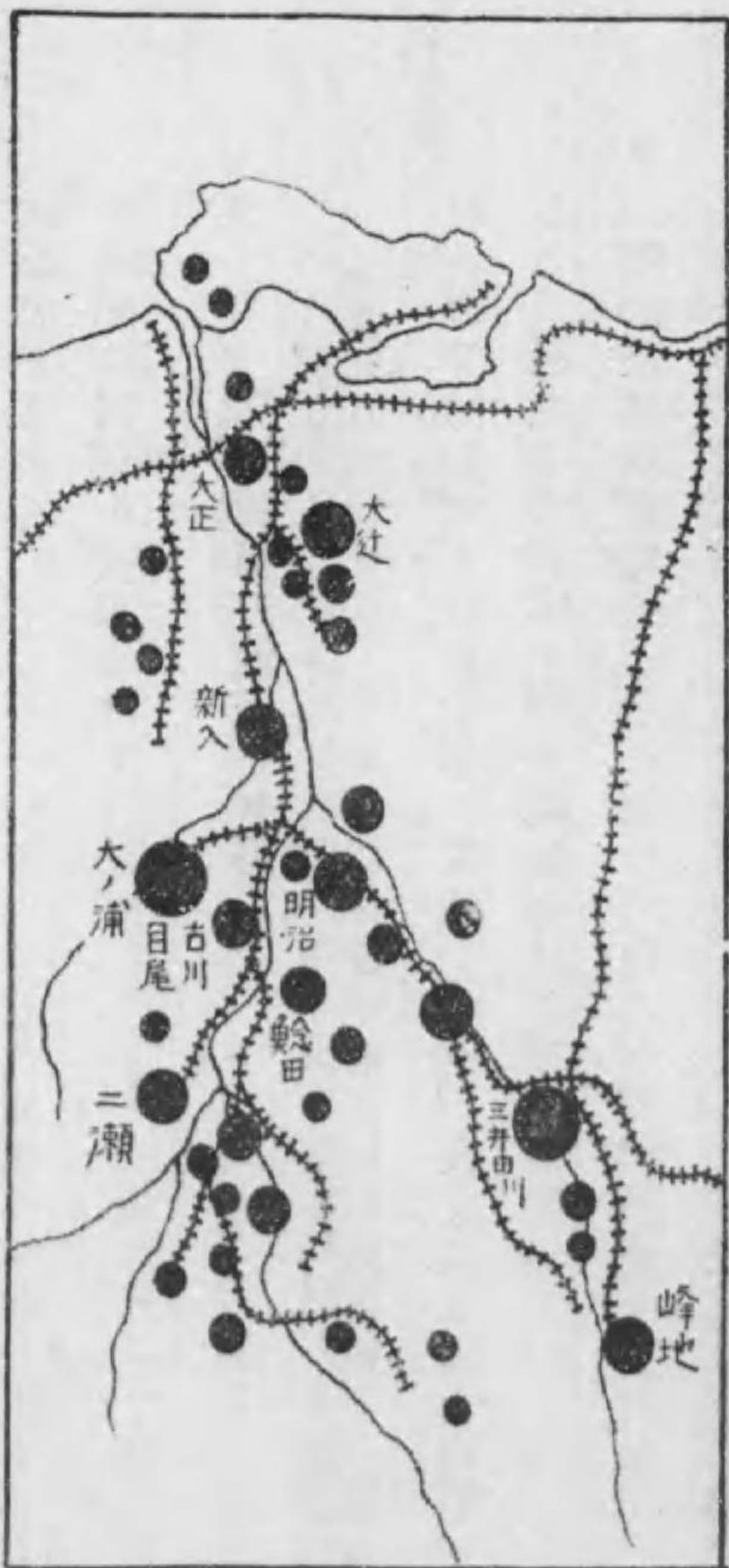
本縣の石炭の産額は日本總産額の過半をしめ、九州全産額の約九割にあたつてゐる。

筑豊炭は煤煙は多いが火力が強いので、多く工場に使用されてゐる。

又石炭は燃料の外、これから色々な薬品を製造する事が出来るので、それ等の工業も大牟田市附近には盛んである。

筑豊炭田から出る石炭は、筑豊線、遠賀川及び運河によつて若松、門司の兩港に運ばれ、これから太平洋方面では横濱

筑豊炭田炭坑分布圖



以西、日本海方面では新潟以西の各地と朝鮮及び支那

印度、南洋等の各方面に運ばれるし、三池炭田の石炭は三池港から積み出される。

【参考】筑豊炭田の沿革と炭層

筑豊炭田の發見せられたのは寛永年間、藩主黒田繼高が堀川を開いたとき、黒

色のもゆる石を發掘してから附近の者が之を掘つて使用してゐたこの事である。後、明和年間に若松の庄屋和田佐平が製鹽業の燃料として盛んに採掘使用して幕府のどがめを受けたこともあつたと云ふ。

幕末時代米艦の來航から蒸汽船燃料として必要であることが知られ、その後御用炭として若松より江戸(今の東京)に毎年送つてゐたと云ふ。

この炭田の炭層は東にかたむいてゐるものが多く、厚さは八尺から四尺位だと云はれてゐる。そして一年に一千五百萬噸つづ掘り出すとすれば、まだ五六十年間は採掘が出来るさうである。

三池炭田の沿革と炭層

三池炭田の發見は、今から四百餘年前三池郡稻荷村の一農夫が、今の大ノ浦の近傍で柴を刈り枯葉を集めて焼いた時、たまたま黒色の石がもゆるを見てはじめて石炭である事を知り採掘をはじめたと云ふ。

明治維新以後政府の手に依つて色々な施設研究をした後、三池集治監をここに置いて、囚人によつて之を採掘させてゐたが後三井家に拂ひ下げた。

三池炭田の炭層は五尺から二十五尺に達し平均八尺位であるから一名八尺炭とも云ふさうである。

一ヶ年二百萬噸づつ採掘すると百七十年餘で掘りつくせると。

【参考】堀川の運河

堀川の運河は、遠賀川の水を引き、遠賀郡香月村大字楠橋字壽命寺より、八幡、若松戸畑市の母である洞海に通ずる延長五千五百五十七間幅約六間の運河であつて、今より三百數十年前の元和七年(寶曆元年)、時の福岡藩主黒田侯の遺工である。

其の初めは、洪水の害を除き、また田園の灌漑の目的になされたものであるが、筑豊炭田の採掘以來、船運に利用されてその上下するもの數千に及び、洞海の價値を高め、多大の利益を與へてゐる。

〔問題一〕 本縣内にある主なる炭田の名を云へ。

〔問題二〕 筑豊炭田の石炭はどんなにして運ばれ、どんな所に賣出されてゐるか。

〔問題三〕 三池炭を輸出するため特別の設備はないか。

〔問題四〕 本縣の鑛業の盛大になつたわけを考へてみよ。
 〔問題五〕 鑛業とその他の産業との關係を考へてみよ。

四、工業

本縣の工産額は全生産額の過半をしめてゐる。

その主なる産物は、砂糖、酒類、セメント、鐵製品、麥酒、綿織物、綿糸、硝子製品、電力機械、麥粉、肥料、其他かぞへきれない程ある。

これ等の主なる産地は、門司、小倉、戸畑、八幡、若松等の工業地帯と福岡、大牟田の兩市とで、之等の都邑も工業が盛んになるのにつれて、次第に發達して來た工業的都市である。

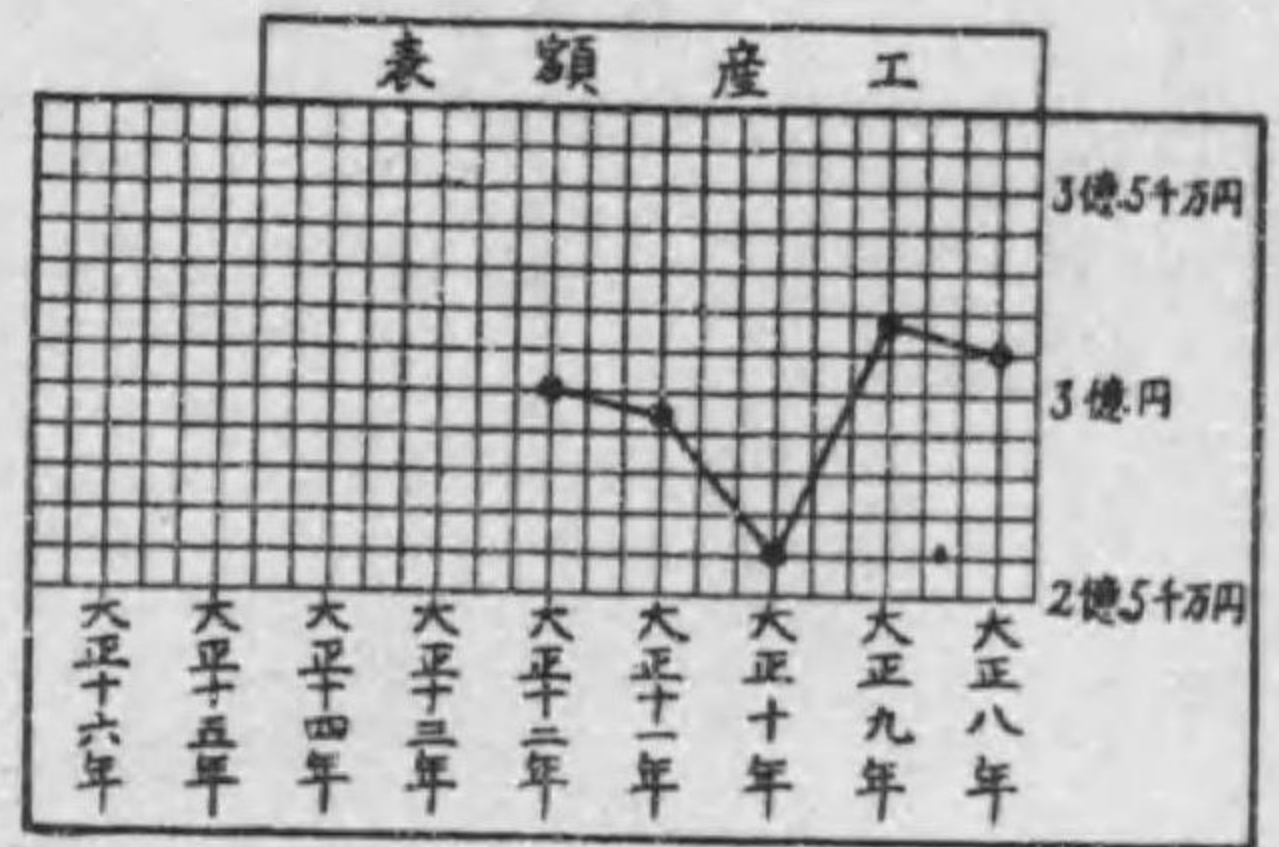
關門地方の工場分布圖



かく盛んになつて來た理由は色々あらうが、交通が便利で、原料の輸入や製品の輸出に都合がよく、又石炭を得るのに甚だたやすいこと等はその主なるものであらう。

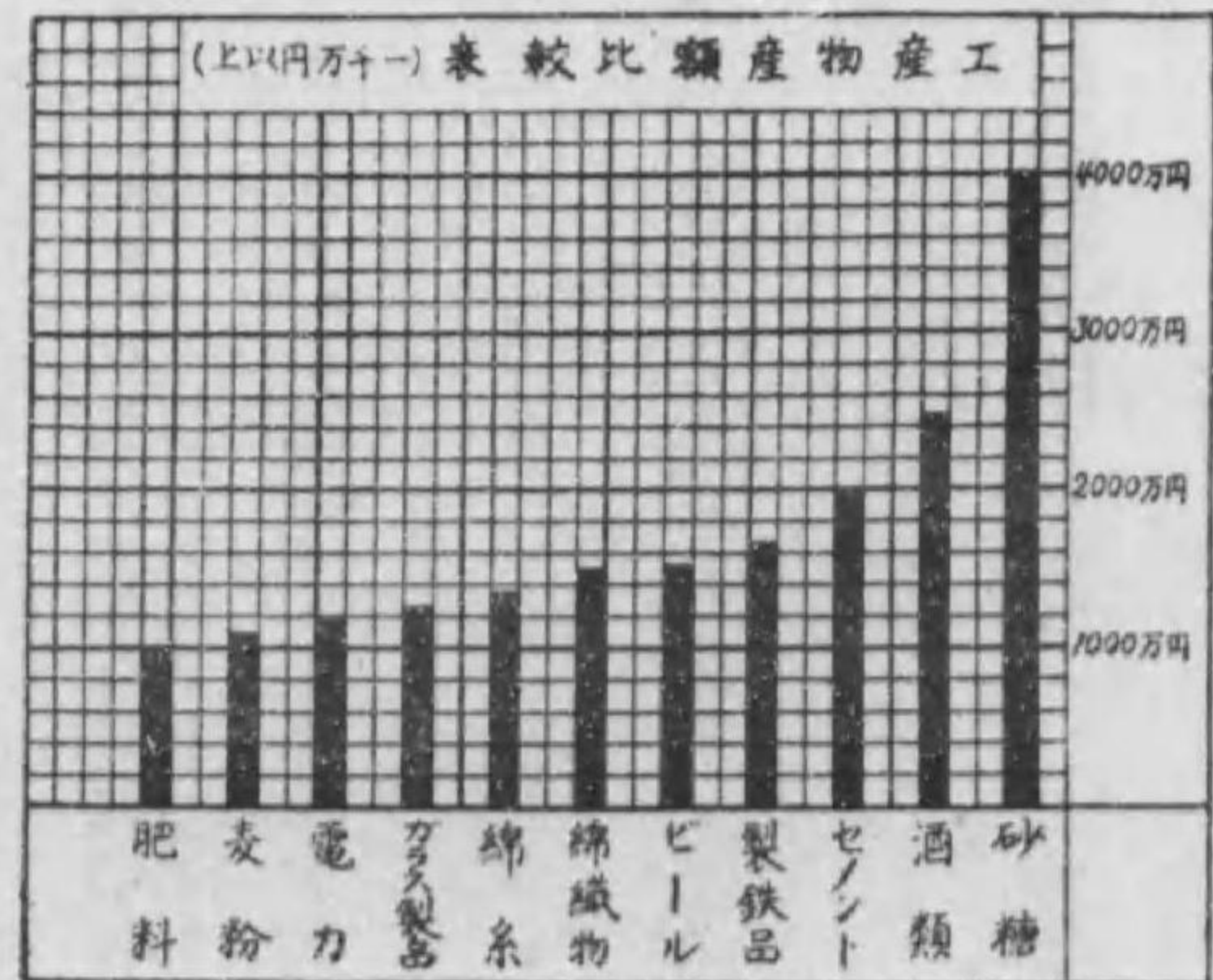
工産物の重要なものをあげると次の表のやうである。

八幡には官設の製鐵所があつて盛んに鐵製品を供給してゐるが、その原料の大部分は支那及び朝鮮から來てゐる。

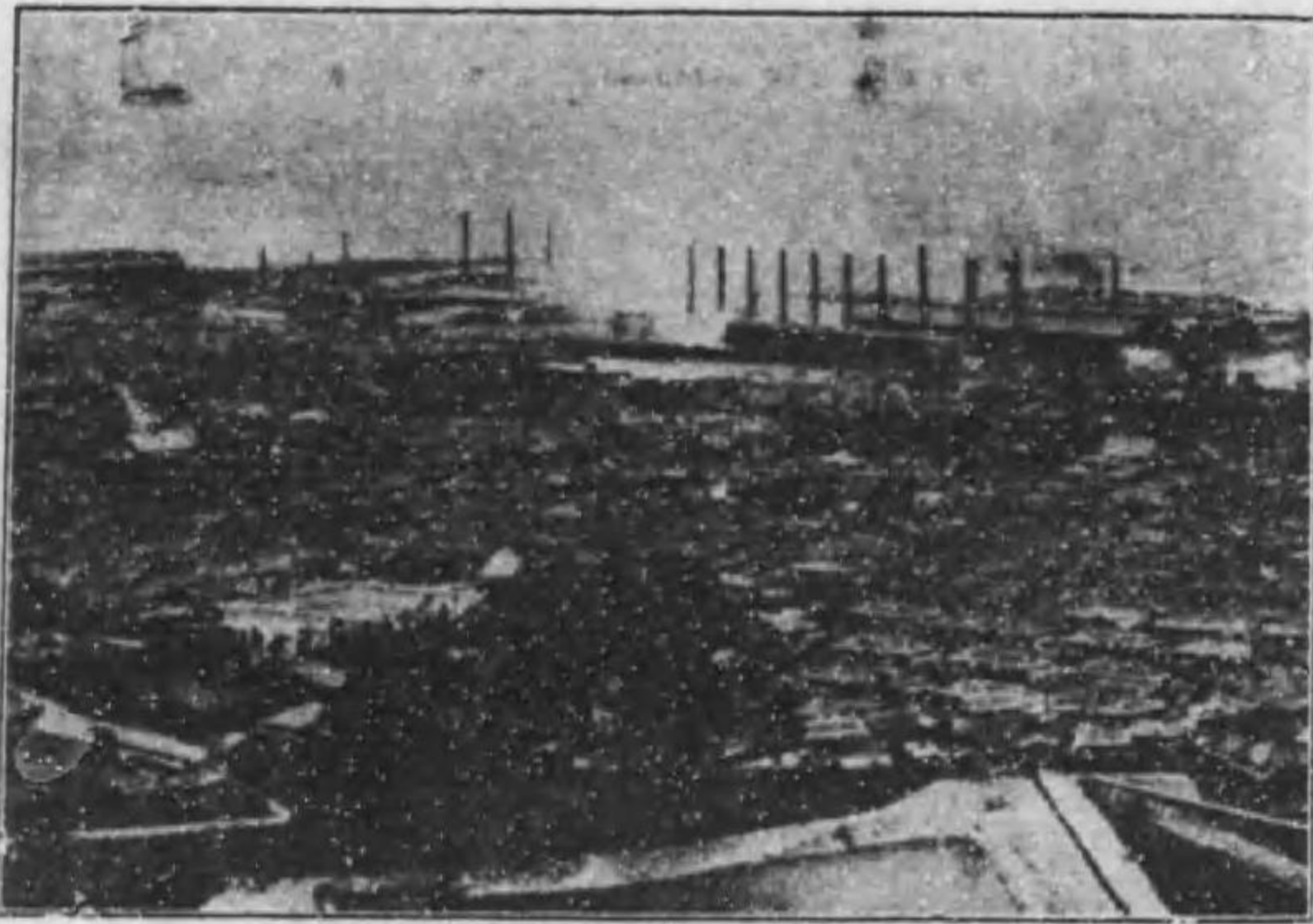


久留米市を中心とする (三漕郡、八女郡) 久留米緋、三漕郡地方の疊表等主として家内工業による特産品がある。

又製糖業は臺灣及びジャワ島の粗糖を原料として之を精製してゐる。この外、福岡市に於ける博多織、



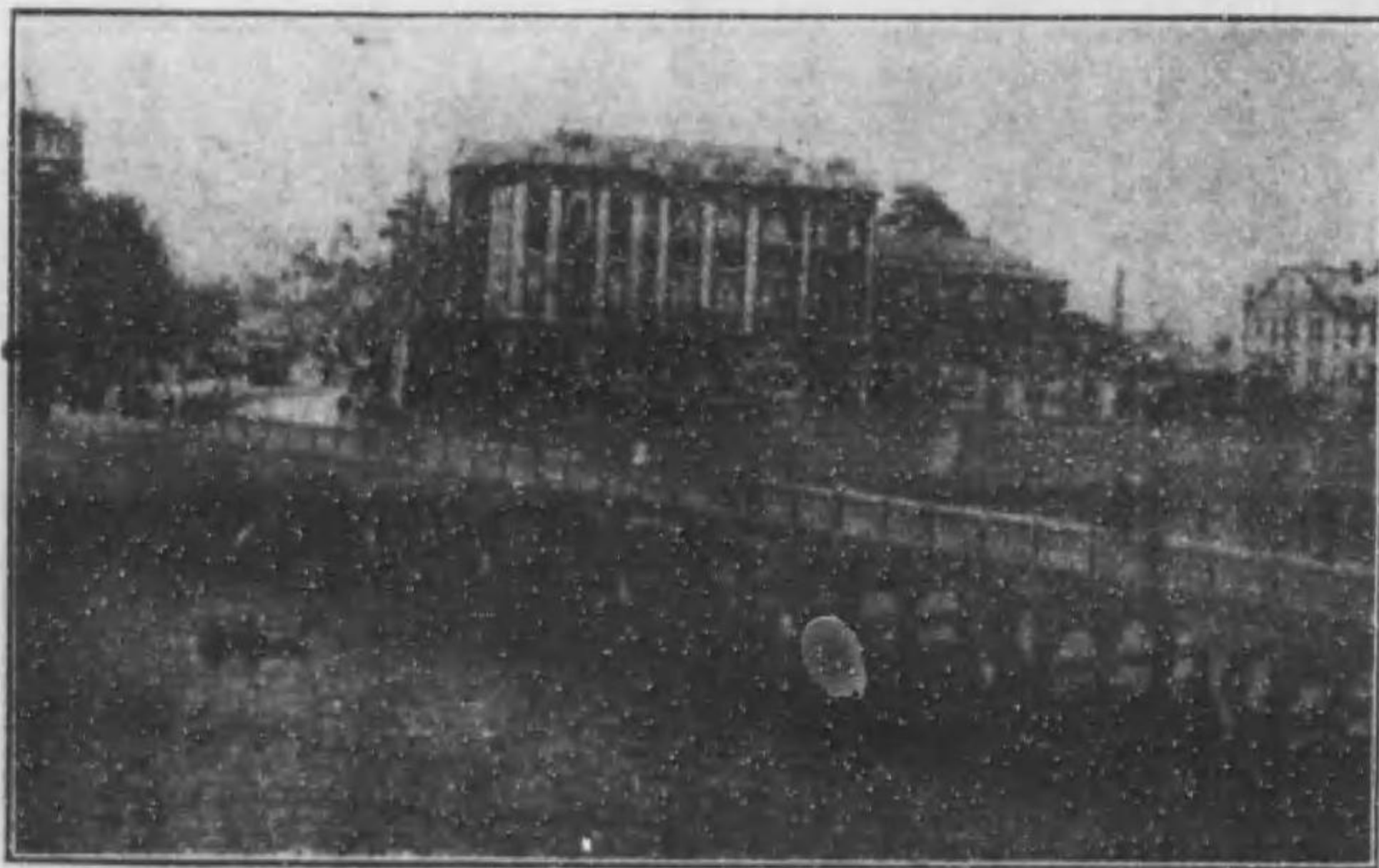
所 鐵 製 幡 八



【参考】八幡製鐵所

政府が製鐵事業官營を認めて創立費を議會に要求したのが、明治二十四年であつた。當時未だ諸調査が不充分であつて通過を見なかつたが、二十八年に至つて政府は九萬噸の鐵鑛を計畫し、第九議

會で創立費四百九萬五千圓の協賛を經、廿九年三月に官制を造り、三十年三月いよいよ八幡村 (現在の八幡



所 列 陳 品 商 縣 岡 福

市)に土地買収を開始した。

そして明治三十四年二月五日に第一熔鑛爐の點火式をあげその後起業祭を行ふこと、大正十四年に於て二十五回、時あたかも、日露戦争に遭遇した爲め、非常に鋼の需要が多くなり、技術又長足の進歩をなし、現在に於ては既に三期

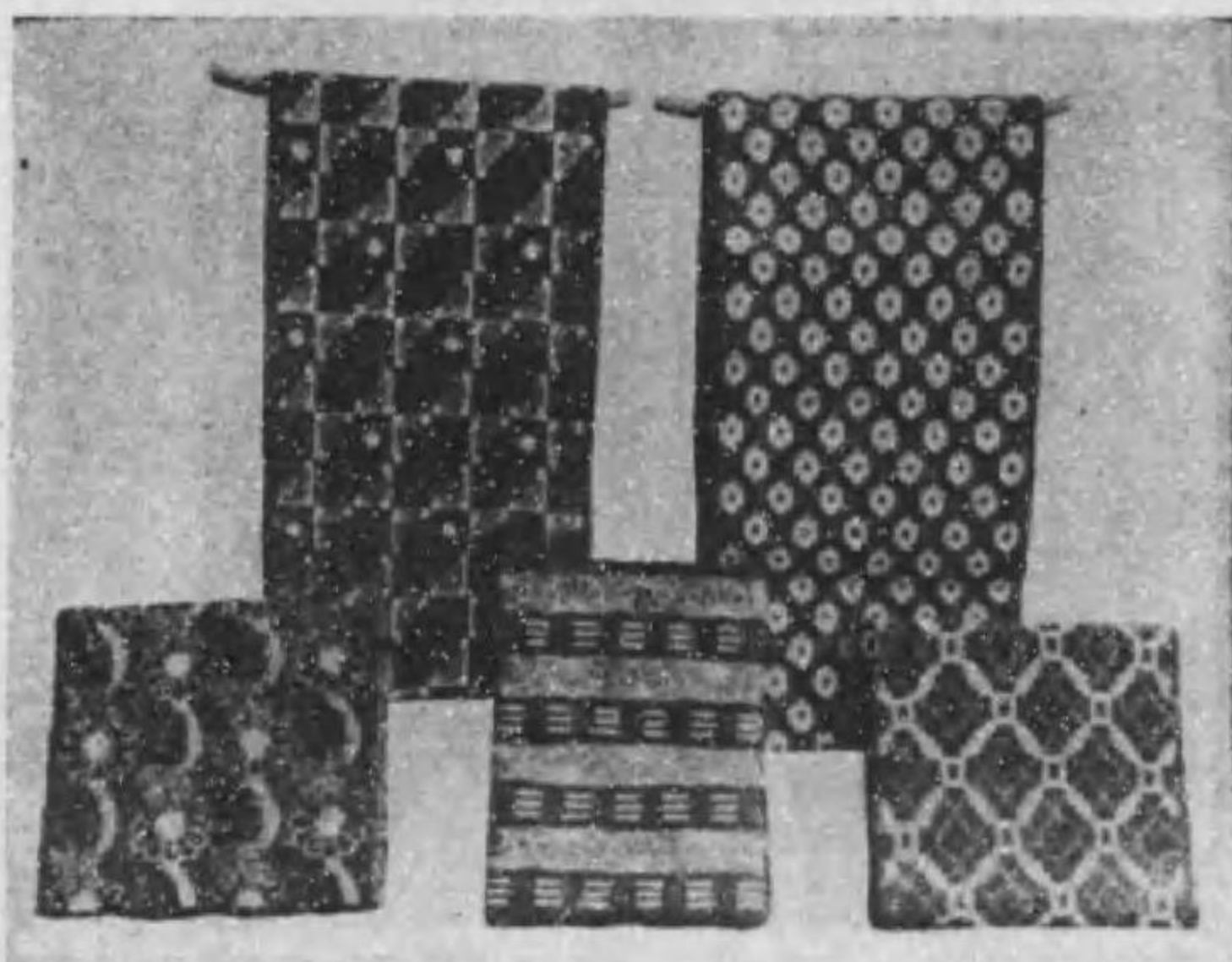
の擴張をも完成し、更に我が國需要の百八十萬噸に向つて突進すべく第四期擴張を起す必要にせまられてゐる。一方八幡市は、今日でこそ北九州を壓倒する氣概を有してゐるが、その製鐵所創立の際を見るに晝狸の横行する様な一寒村であつた。

現在にぎやつてゐる西本町、中本町筋は參勤交代大名の通路であつて十數年前迄は街頭に松の大木がそびえてゐた程である。

○久留米絣と井上テン女

久留米絣の元祖である井上傳女は天明八年十二月

久留米絣



(百二十餘年前)久留米市通町(當時筑後國御井郡久留米通町)に生れた人である。幼い頃から機織りを好み、種々工夫をこらして新しい柄の織物を案出する事に力めてゐた。或る時(十二三才の頃)布織の端の糸を以つて白糸の所々を堅くくくつて藍汁に浸し、その糸を以て織つてみた所が色々な模様が現れて面白い柄が出来た。

傳女はそれから色々苦心して今日の久留米絣の様な柄を案出したのである。年十五六歳の頃には早くも二十餘人の弟子が出来、四十歳の頃までにその教を受けた者四百人の多きに及んだと云ふ。

明治二年八十二歳で死んだが同九年九州共進會に於て一等追賞を受けた。

○神屋宗堪

今から三百六十餘年前(豊臣秀吉の頃)今の福岡市博多に神屋宗堪と云ふ人があつた。

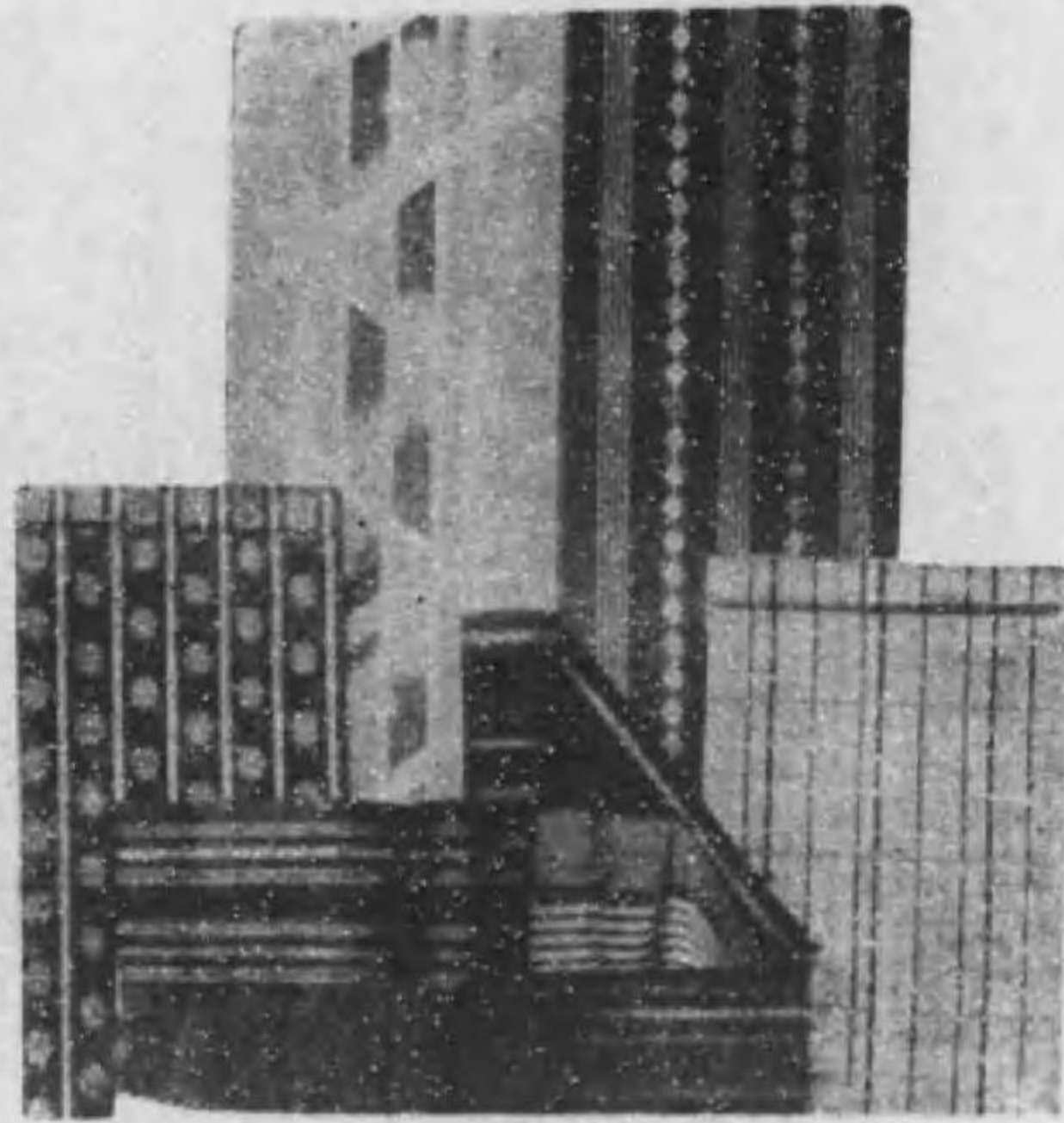
宗堪の生涯は殖産興業に力をつくしたと云つてよい。その主なるものを擧げると第一植栽培、生蠟製造、第二鑛山業、第三度量衡、第四博多織、第五博

多素麵等である。

鑛山業では、筑豊炭田の古い鑛山中に今尙宗塔マブと云ふものの存するのはその遺跡である。當時博多は兵火にかかったため、宗塔は唐津(佐賀縣)名古屋にて支那と交通貿易してゐた際、自ら支那南部に行つて十石餘り檀の實を求めて本國に持ち歸り、先づ唐津地方に試作して苗を仕立て之を各地に殖植した。これが我が國での檀の栽培のはじめである。

福岡城が成就すると、その城堀(黒門より女子師範に至る道)の堤防に數十本の檀を植ゑた。かくて次第に福岡縣北部地方に栽培される様になつた。今大塚のまはりにある檀を見るとなんだかなつかしい様に思はれる。

博多織



〔問題一〕 本縣は何故工業が発達したか。

〔問題二〕 本縣で特に工業の盛んな地方は、どのあたりか。

〔問題三〕 本縣の工業的都市をあげよ。

五、水産業

北は、玄海灘、響灘、東は瀬戸内海の周防灘、西南部は有明海にのぞんでゐるが、水産業は餘り盛んではない。

ただ、北部海岸の鯛と鰯、有明海の牡蠣とあげまき、三潞郡地方の鯉、鰻の如きは其の主なるものである。

又瀬戸内海沿岸地方には、わづかに製鹽等が行はれてゐる。

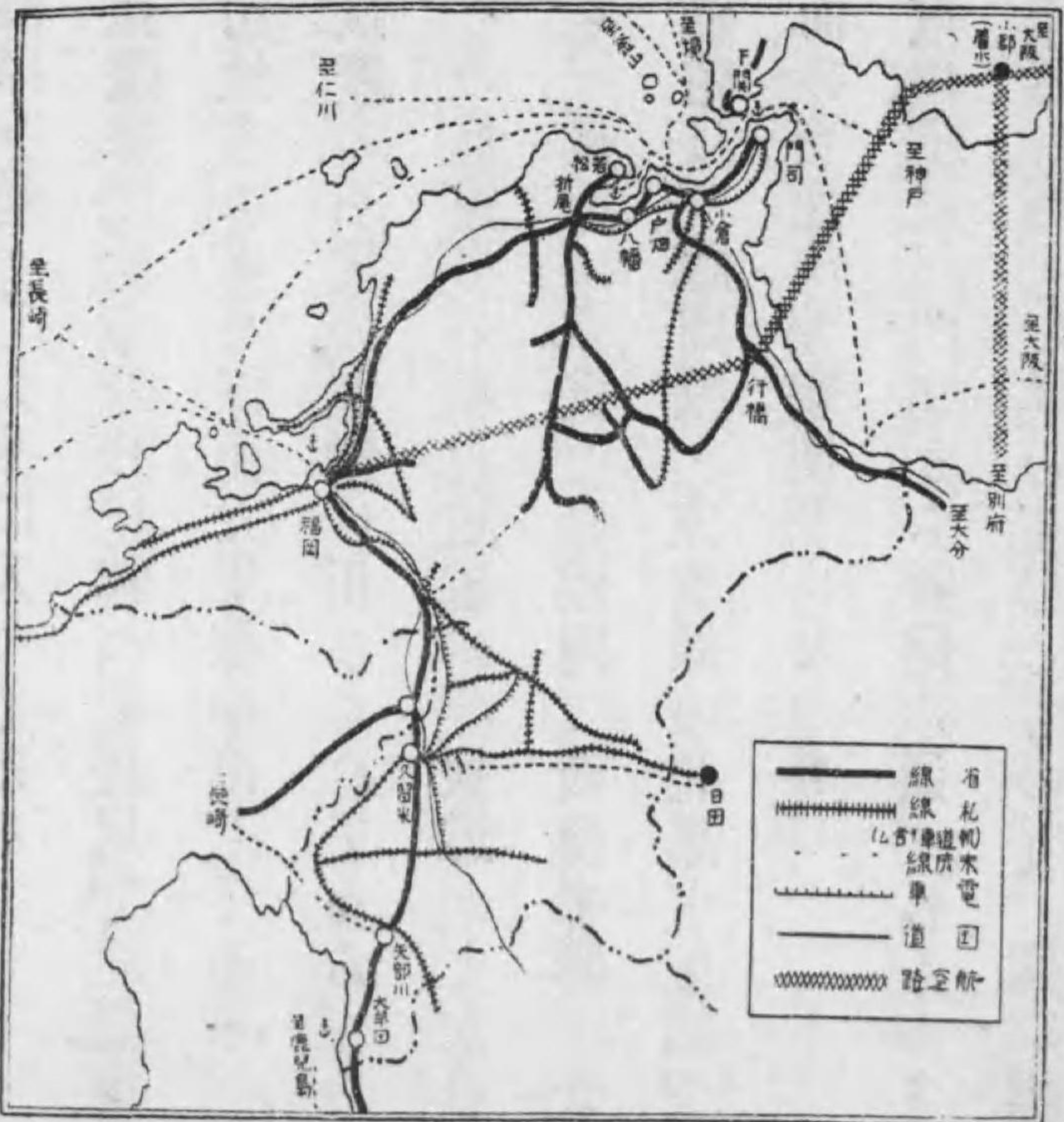
第九 交通

本縣は、その位置本州と九州との連絡地にあたり、大陸へも近く、且瀬戸内海と日本海との中間に狭まれ、自然的交通上の要地に當つてゐるので、陸上の平地は交通網が縦横に發達し、海上には數多の良港を中心に、遠洋に、近海に、沿岸に航路網が發達してゐるので、交通は非常に便利であると云つてよい。

一、陸上の交通

鹿兒島本線は門司を起點として小倉、戸畑、八幡、福岡を通り佐賀縣に入り島栖にて長崎線と分かれ、久留米、大牟田

交通系分布圖



等の都市を通つて、熊本縣に入つてゐる。

この鐵道は九州を縦に貫く線で乗客も貨物も非常に多い。

日豊線は小倉から鹿兒島本線と分かれて、東

の海岸を通つて大分に入つてゐる。

筑豊線は北方若松に起つて折尾で鹿兒島本線と交り、筑豊炭田地方に至り澤山な支線を出してゐる。この鐵道は主として筑豊の石炭の運搬に用ひられてゐる。

その他數多の私設鐵道や、軌道がしかれてゐるが、その内でも、最近に完成した福岡（新博多驛）から唐津に至る北九州鐵道は、福岡縣と佐賀縣の北部とを結びつけたため、此の方面の交通は大變便利になつた。

電車では、門司から折尾に通ずるものと、福岡から久留米に至るものとは其の主なるもので、殊に福岡久留米間の急行

電車は汽車の急行よりも早い、従つて兩市の時間的距離は非常に短縮された。

道路も平野の地方はよく發達し、主なる都邑間を連れてゐる。山地の方面でも、ここかしこの峠によつて谷と谷とを連れて重要な交通路をなしてゐるものが少くない。

自動車のゆきききも近時次第に多くなつて來て大切な交通機關の一つとなつた。

又電信電話もその利用者の増加と共に至る所に通ずる様になり、無線電信は勿論、無線電話さへ設けられる様になつた。

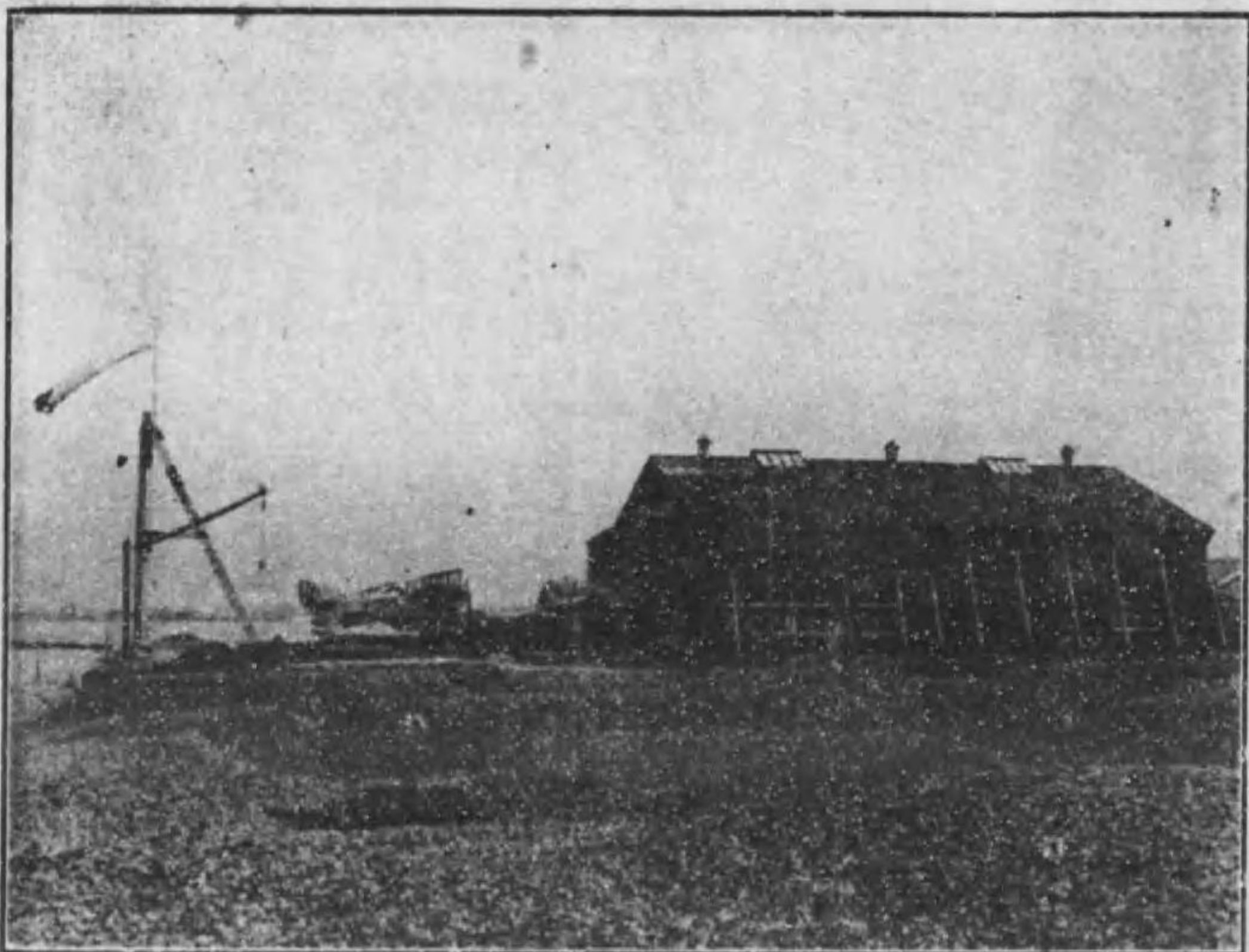
二、海上交通

本縣の北部の海岸は門司、若松、福岡等の良港に富む上に、その位置が世界交通上の大切な路に當つてゐるし、尙その背後と交通の連絡もよいので海上の交通は非常に便利である。殊に門司は下關と共に一の海峡港をなし、下關海峡を通る船が必ず寄る處であるから、船の出入の多いことは全國第一に位してゐる。

三、航空路

近時航空機の發達と共に、福岡市と大坂市との間に飛行機の飛ぶ様になつた事は最近の新しい出來ごとの一つである。

福岡飛行機格納庫



この航空路は主として郵便物を運んでゐるが、大坂まで三時間餘りを要すると云ふ事である。

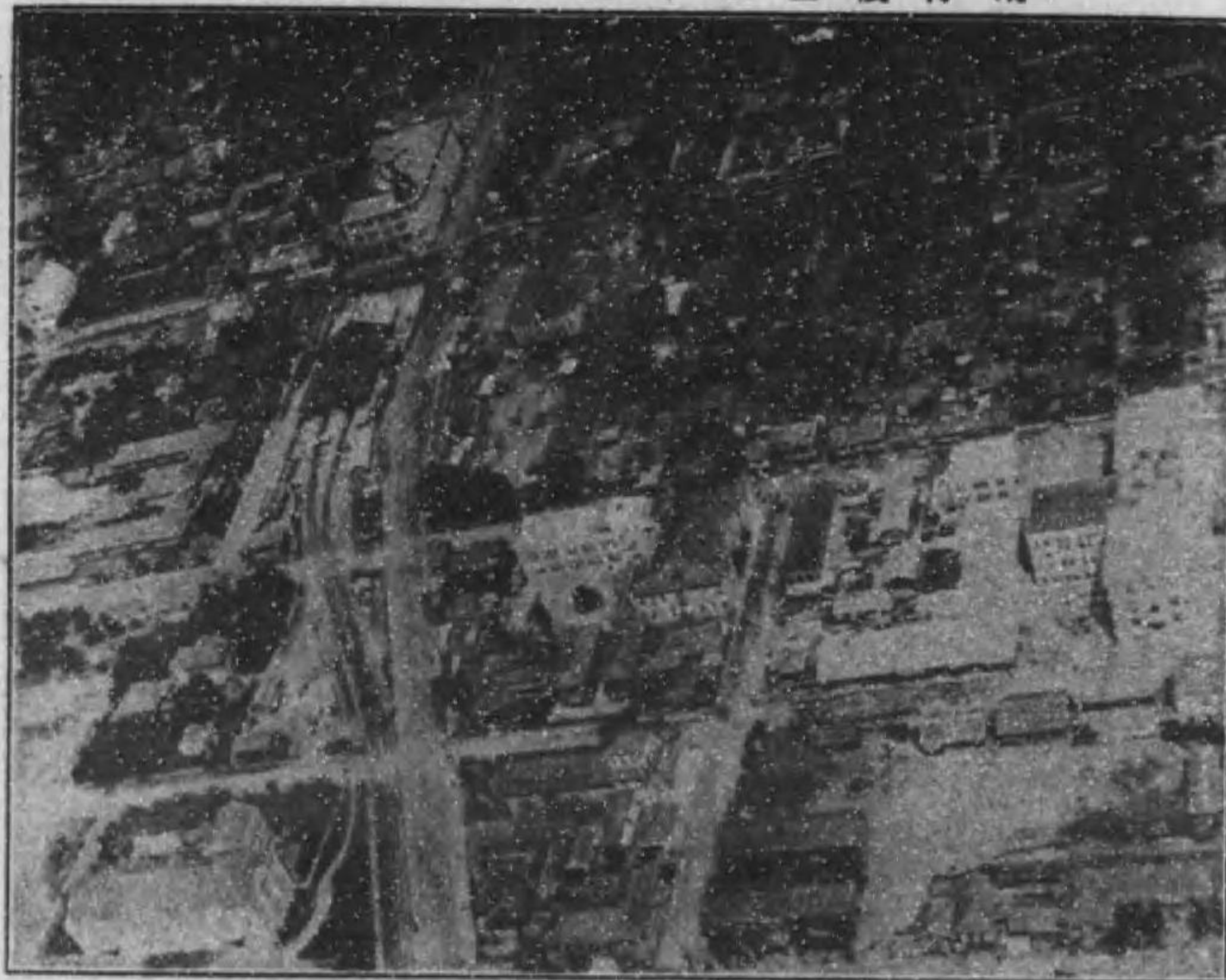
〔問題一〕 本縣の主なる鐵道を云へ。

〔問題二〕 本縣での主なる港はどんな航路をもつてゐるか。

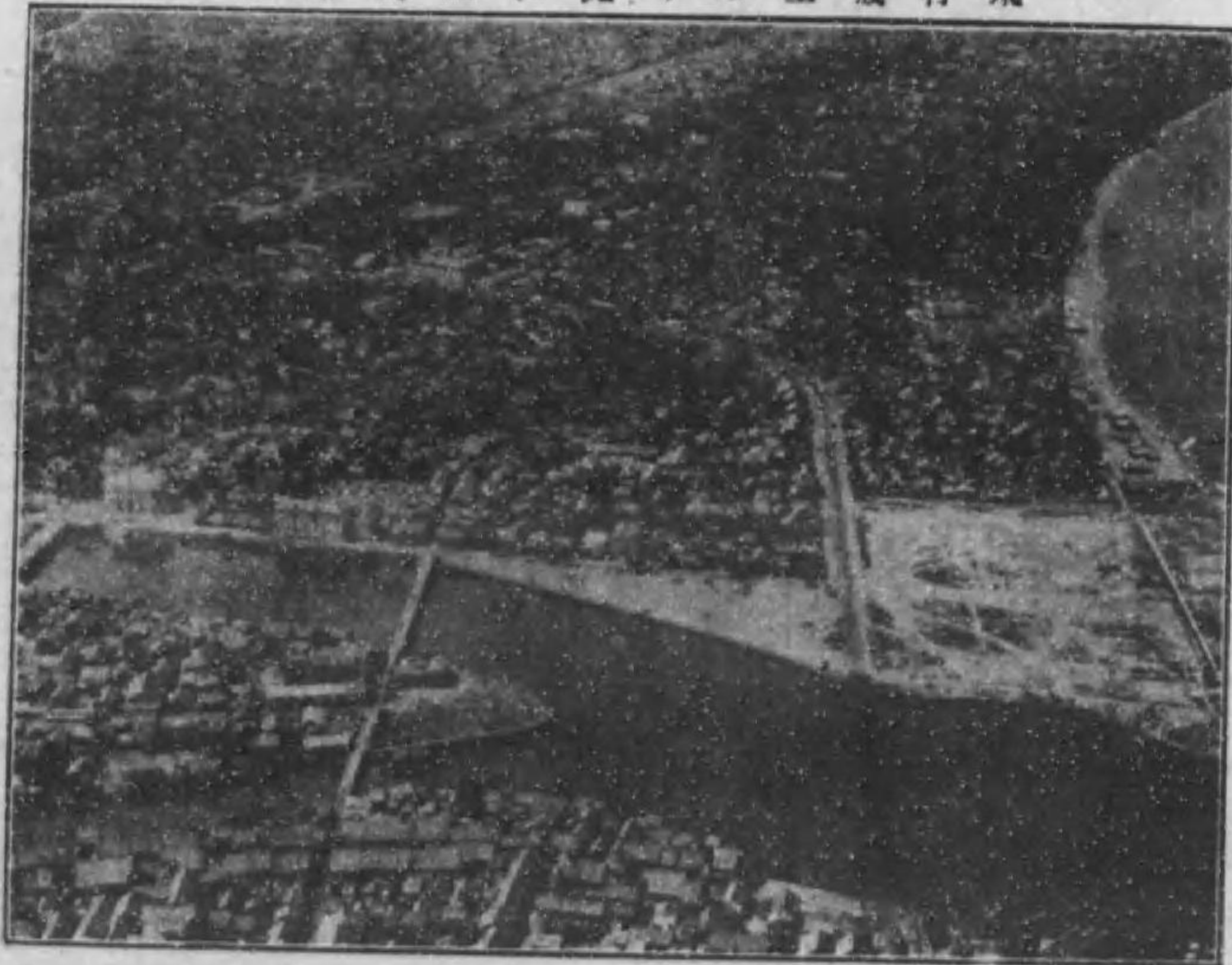
〔問題三〕 重要交通路は地勢上どんな所を通つてゐるか。

〔問題四〕 圖を見てどんな所に峠があるか考へてみよ。

(一)市岡福た見りよ上機行飛



(二)市岡福た見りよ上機行飛



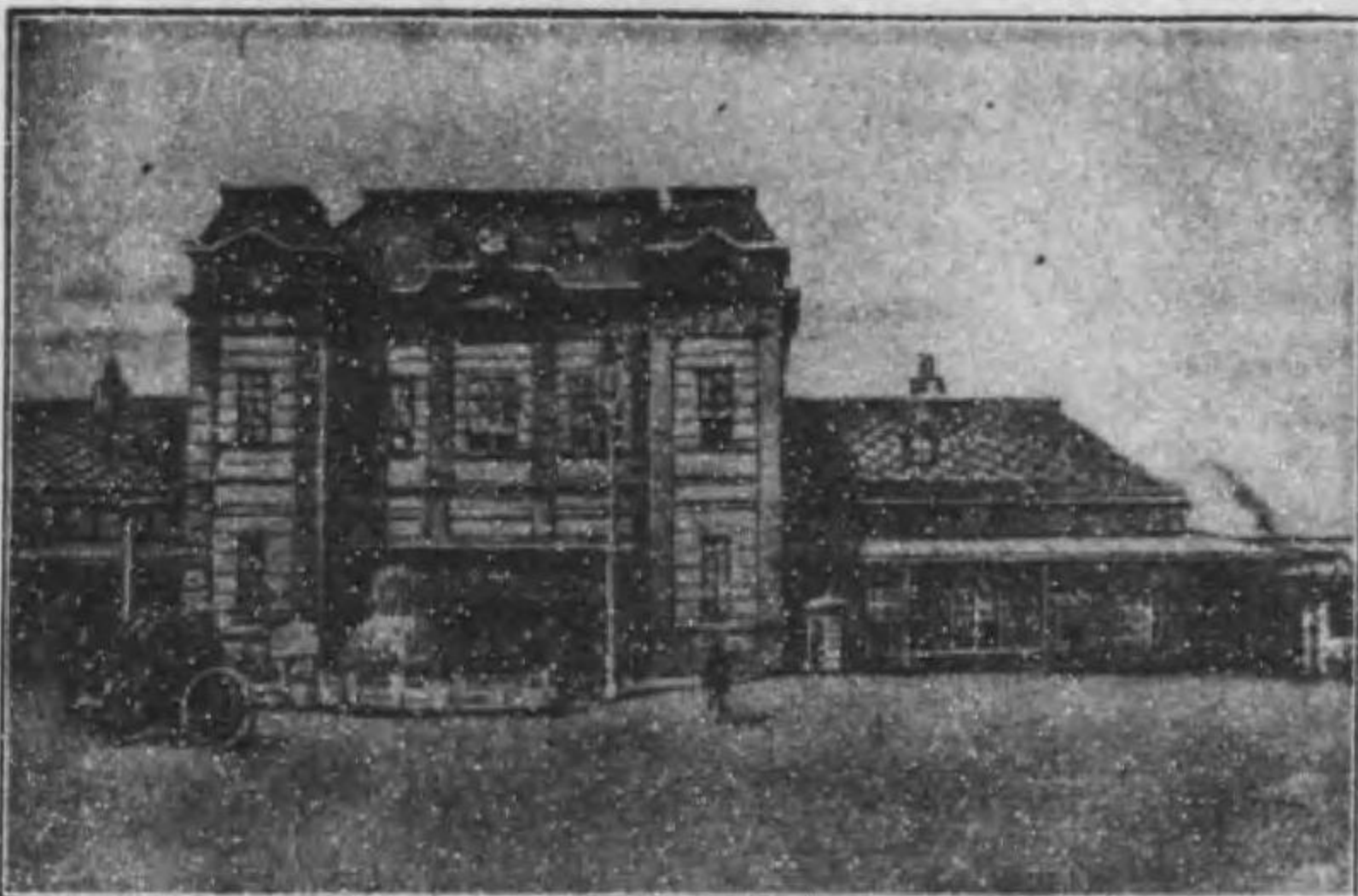
第十、都 邑

本縣は全國でも屈指の人口の稠密な地方である上に、産業の關係から北部地方は都邑の密度も亦甚だ大である。

其の主なるものは門司、小倉、戸畑、八幡、若松、福岡、久留米、大牟田の八市である。

門司市は、下關海峡をはさんで山口縣の下關市と向ひ會つて海陸及び内外

場車停司門



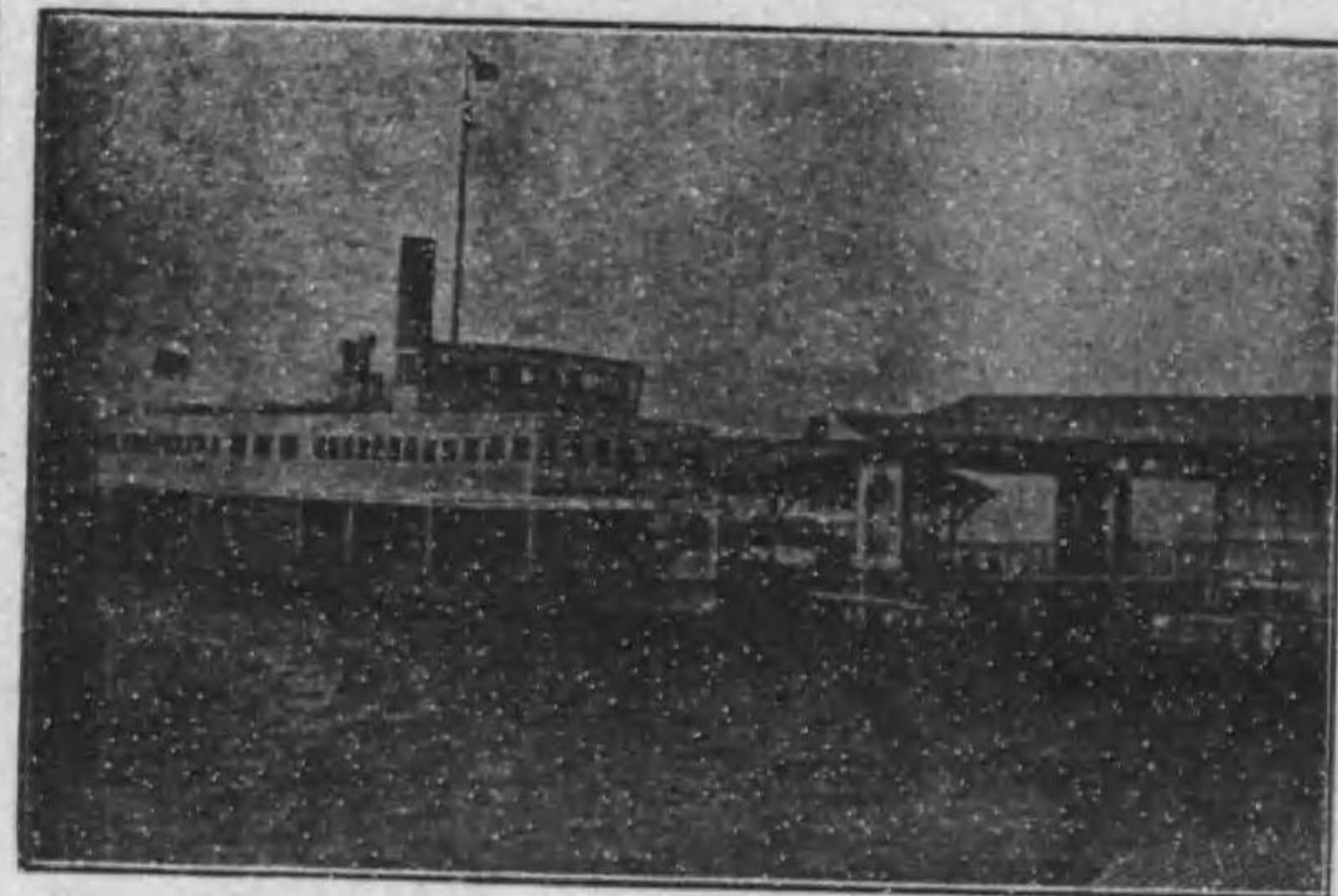
交通の要路に當つてゐるので、交通上、軍事上大切な地であるのみならず、又開港場（特に輸出港）として全國屈指である。輸出品の主なるものは、精糖、石炭で、その他綿織物、

セメント、打紐、真田紐等、輸入品は
繰綿、粗糖、豆粕、小麥、米等である。

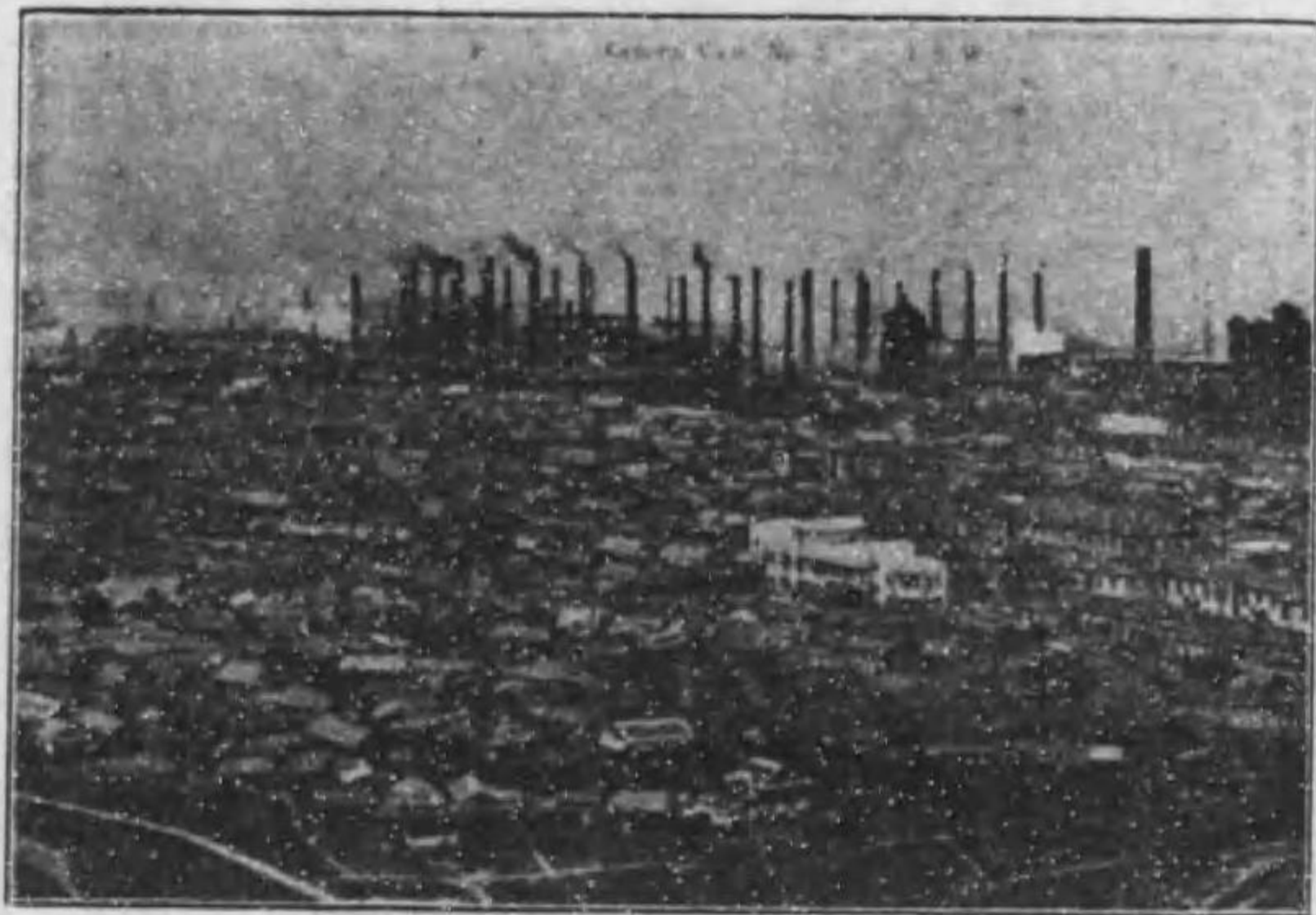
【参考】

明治二十二年築港の修築をはじめ（當時人口三千人のさびしい漁村であつた）三十二年に出来上つた。工費四十萬圓で、港は東西九町、南北二町、水深（満潮時）三十三尺（干潮時二十七尺）である。

(港) 市 司 門



市 幡 八



明治二十三年特別輸出港となり三十二年に開港場となつた。

〔問題一〕 明治二十二年頃までは人口三千に過ぎないさびしい漁村であつたのが今日の様に發達したのは何故か。

小倉市は鹿兒島本線と日豊線との分岐點にあたり、交通上の中心地であると同時に、八幡、若松、戸畑、門司等と共に工業の一大中心地である。

八幡市は、今から三十餘年前迄は人口二千位の實にさびしい所であつたが明治二十九年製鐵所が出来てから非常

な發達をして、大正六年には市制をしき、今では福岡市に次ぐ大都邑となつてゐる。

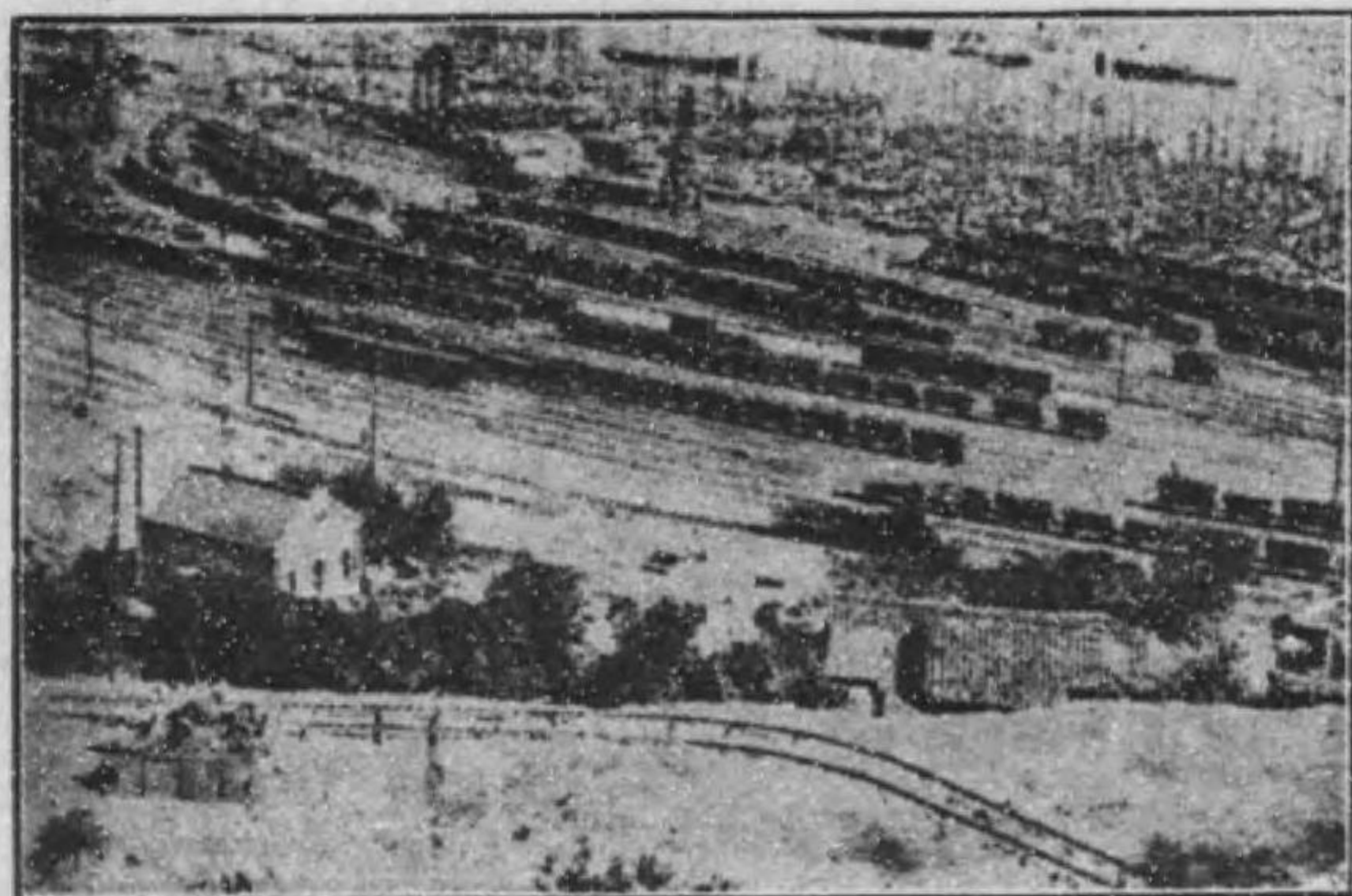
〔問題二〕 そんなさびしい所になせ製鐵所をおいたか。

〔問題三〕 五大都市がかくも接してゐるわけは何故か(こんな例は全國にも稀である)

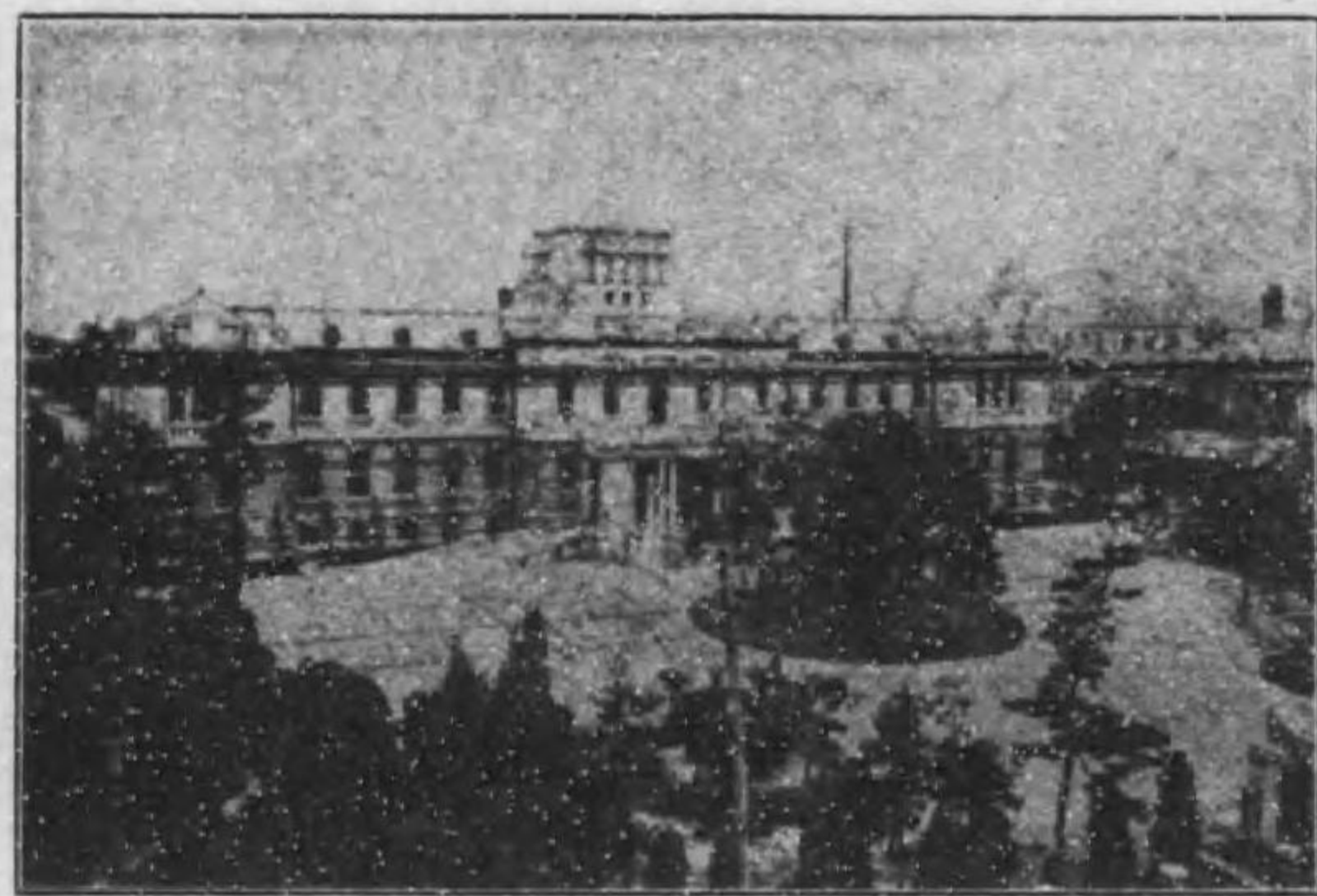
〔問題四〕 住民のところにある八市の人口表を見て讀んでみよ。

戸畑市は八幡市のすぐ北に續き、若松市と向ひ會つて洞ノ海の入口に位してゐる。大正十三年九月一日から市制をしいた工業的な都邑で、今その海岸に築港をしてゐる。若松市は筑豊

若松市



福岡縣



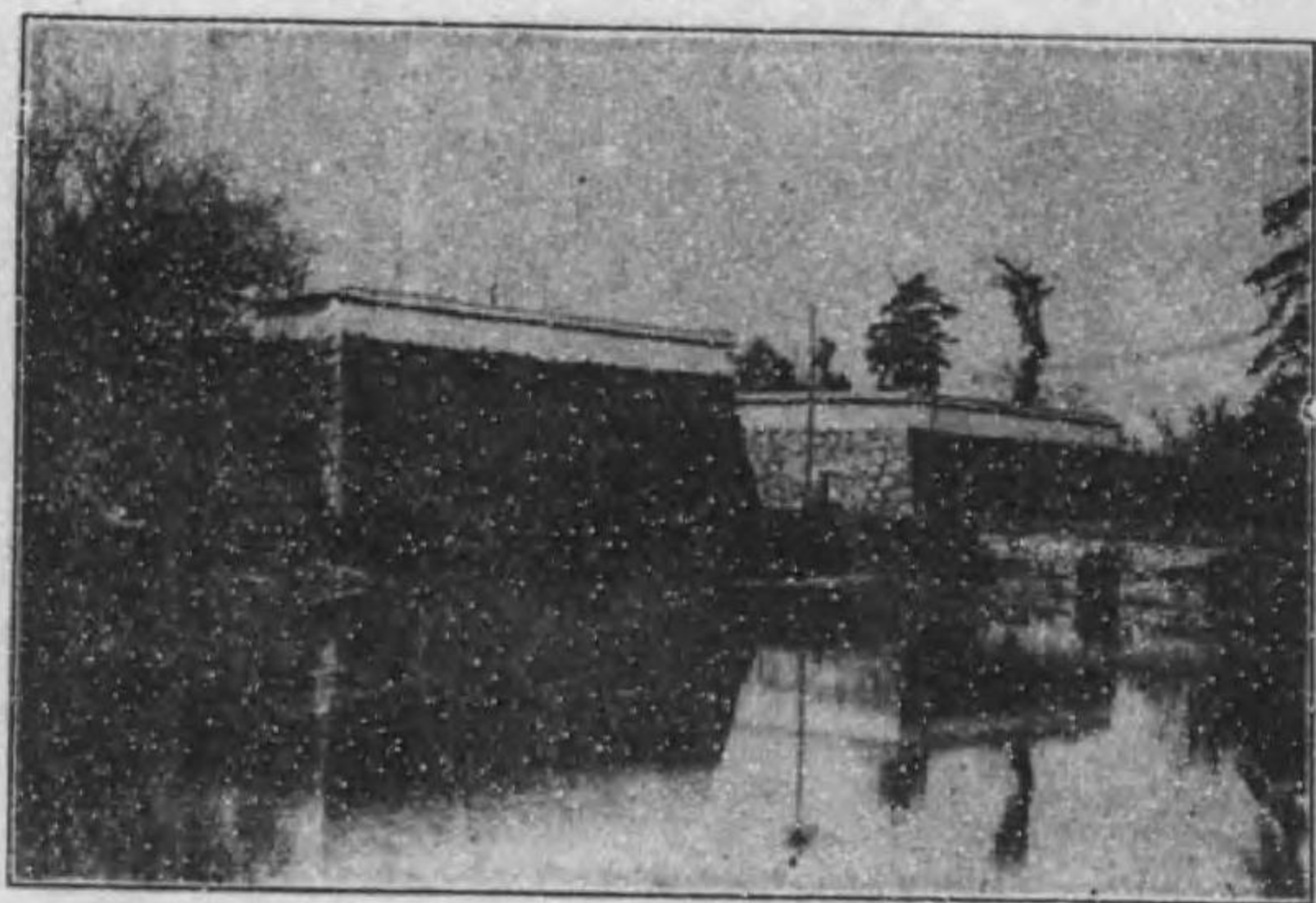
線の起點で、筑豊炭田の石炭の大部分はここから各地方に輸出されてゐる開港場(輸出港)である。

あの停車場の石炭貨車と、港内の石炭を運ぶ船の多いことには誰でも驚くであらう。

ここも明治十六年(今から四十餘年前)頃までは戸數僅に二三百位の漁村であつたと云ふ。

以上の門司、小倉、戸畑、八幡、若松市附近一帯には大小の工場が帯の様に連つて、一大工業地帯をなしてゐて、

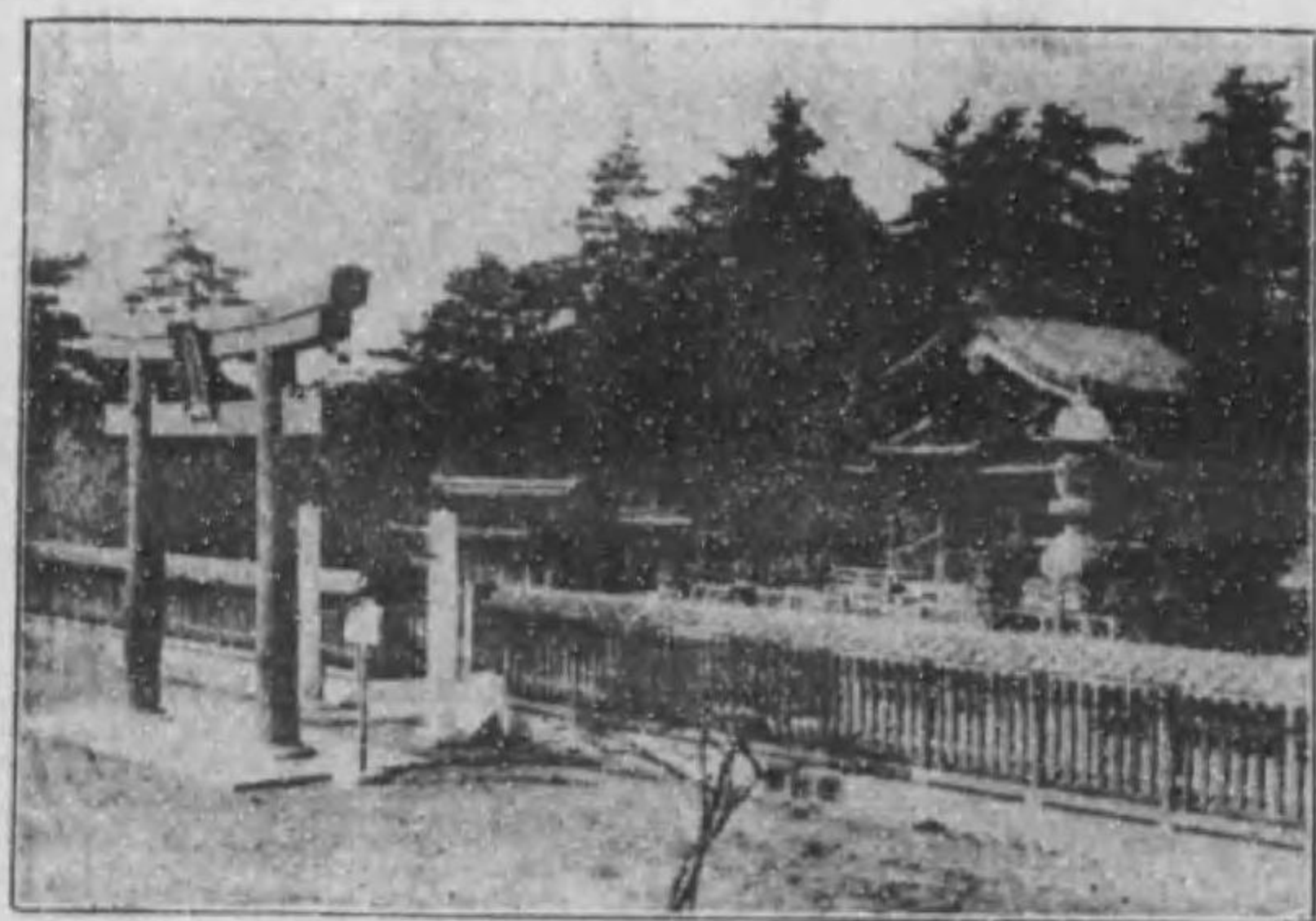
福岡城



非常な活氣を示してゐる。
 福岡市は博多灣にのぞんでゐる昔か
 らの港市であるとともに黒田氏の城下
 町であつた。
 今も尙開港場
 ではあるが、港
 としては門司、

若松、三池等には及ばない。

然し位置がよいので、今では人口十
 五萬を有し、福岡縣第一の都會(俗に九



西公園

東公園



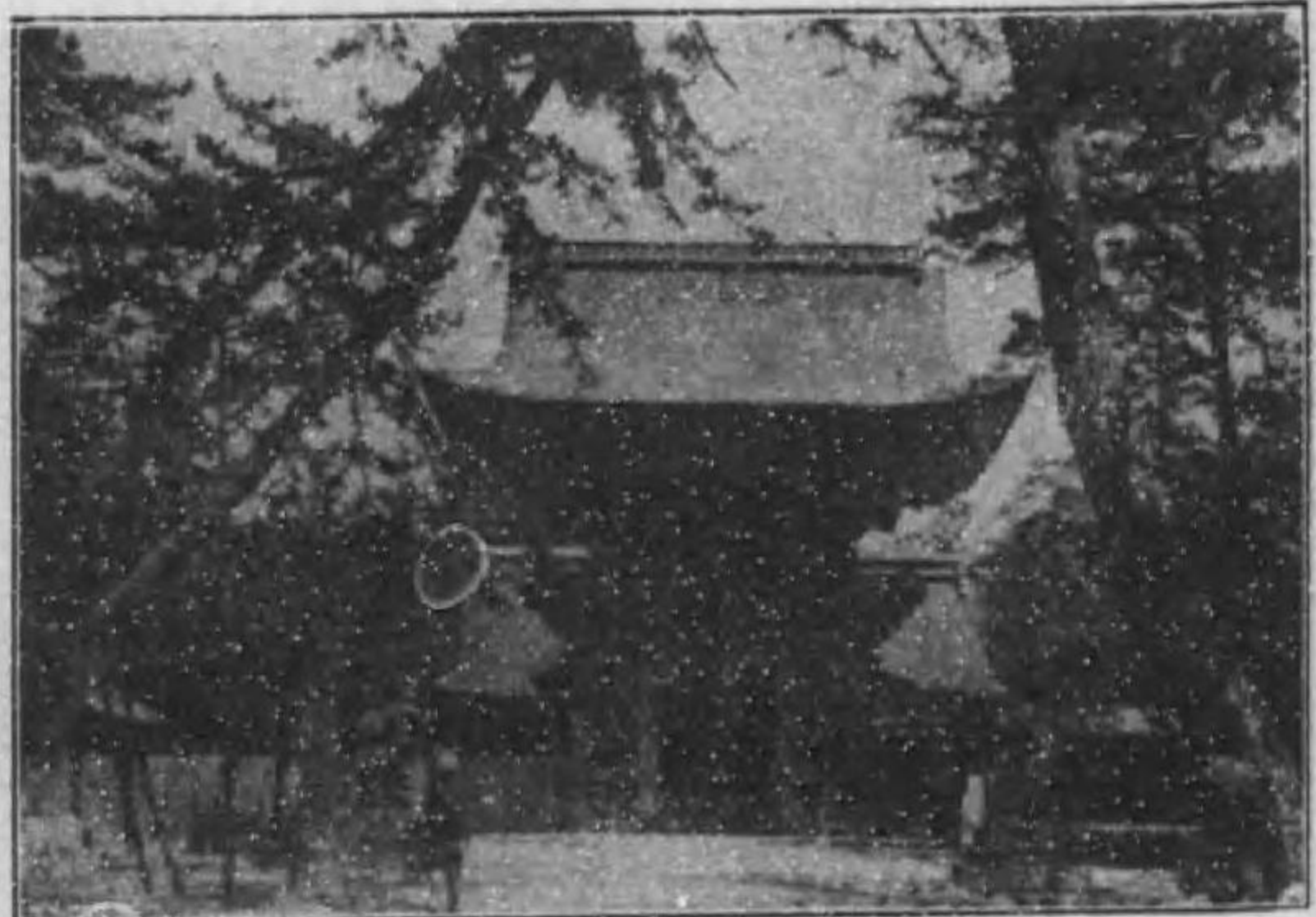
州の東京と云ふ)であるのみならず、
 實に西南日本の重鎮とされてゐる。
 福岡縣廳、九州帝國大學をはじめ色
 々な役所や、學
 校があつて、政
 治學術の中心地
 であると共に、

大小無數の工場や商店、銀行、會社等
 が澤山たちならんでゐるし、鐵道や電
 車が四方八方に通じてゐる。又東、西



福岡市街

箱崎八幡宮

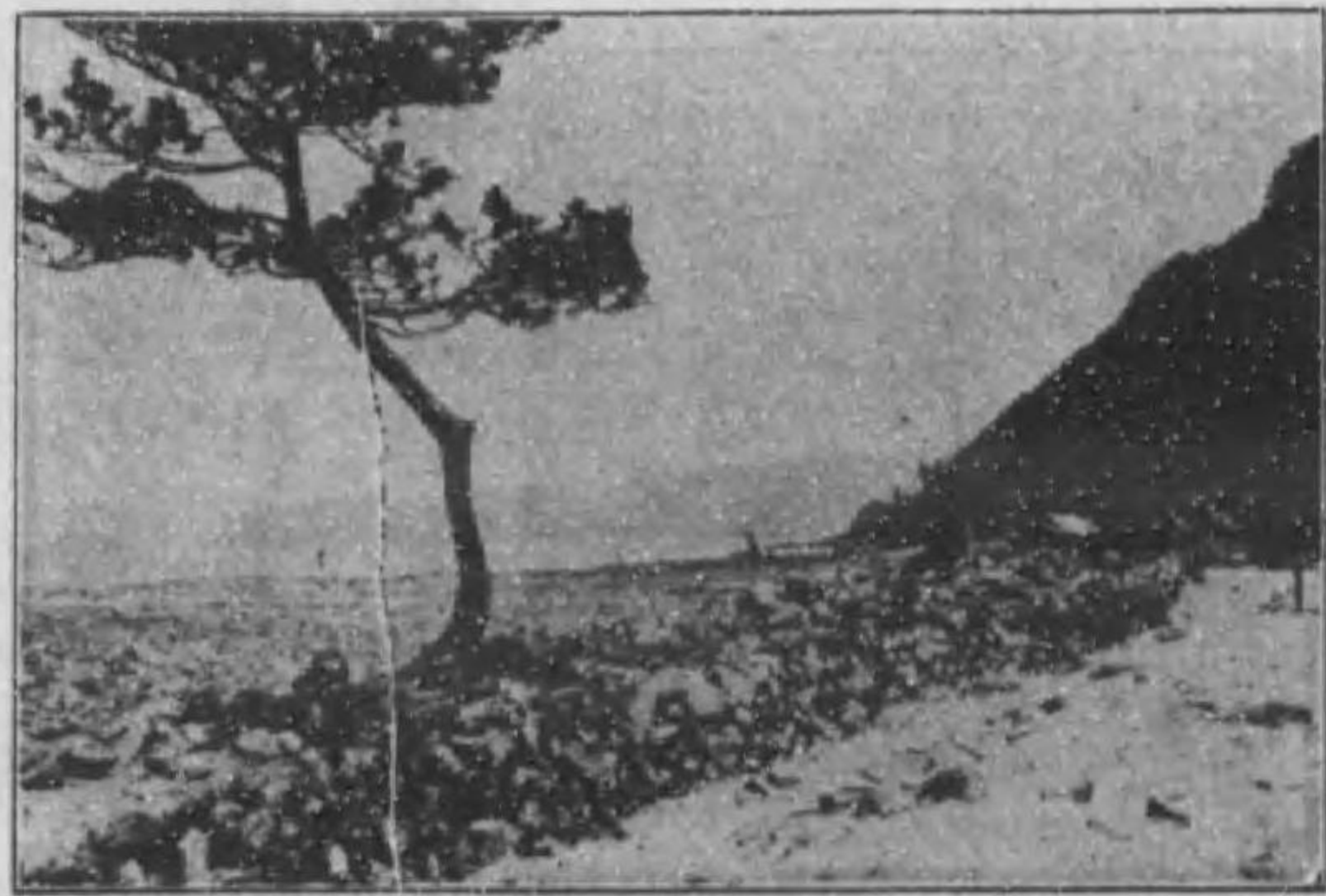


の公園をはじめ一般に景色がよく、且附近に箱崎八幡宮、香稚宮、元寇防壘等の名所や古蹟が多いので、四時人出が多く交通遊覽の中心地としても名高い。

福岡市の東南

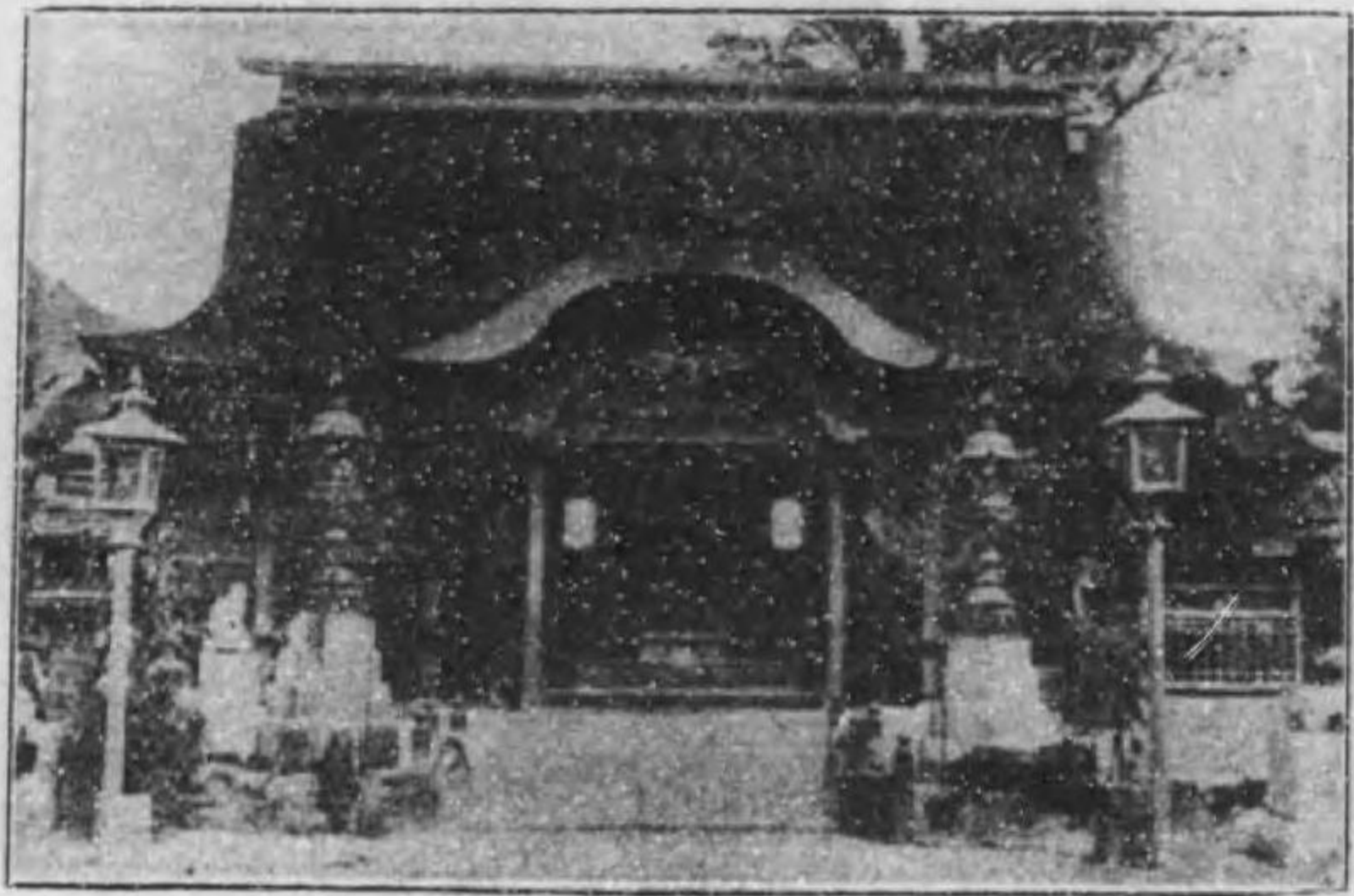
五里餘の所に菅原道眞を祀る太宰府神社(官幣中社)がある。

その附近には太宰府の遺址である都督



元寇防壘

太宰府神社



府址や、國分寺や、又昔新羅や唐の攻め入るのに備へたと云ふ歴史上名高い水城の址もある。此の地がその昔九州に於ける文化政治の中心であつた事もこれ等の事で知る事が出来る。

〔問題一〕 昔は太宰府及び福岡附近が外國(朝鮮、支那)との交通上便利であつた事を考へてみよ。

〔問題二〕 昔の文化政治の中心地が太宰府であつたのが今は福岡市にうつた事を地理上から考へてみよ



都督府の址

榎寺址



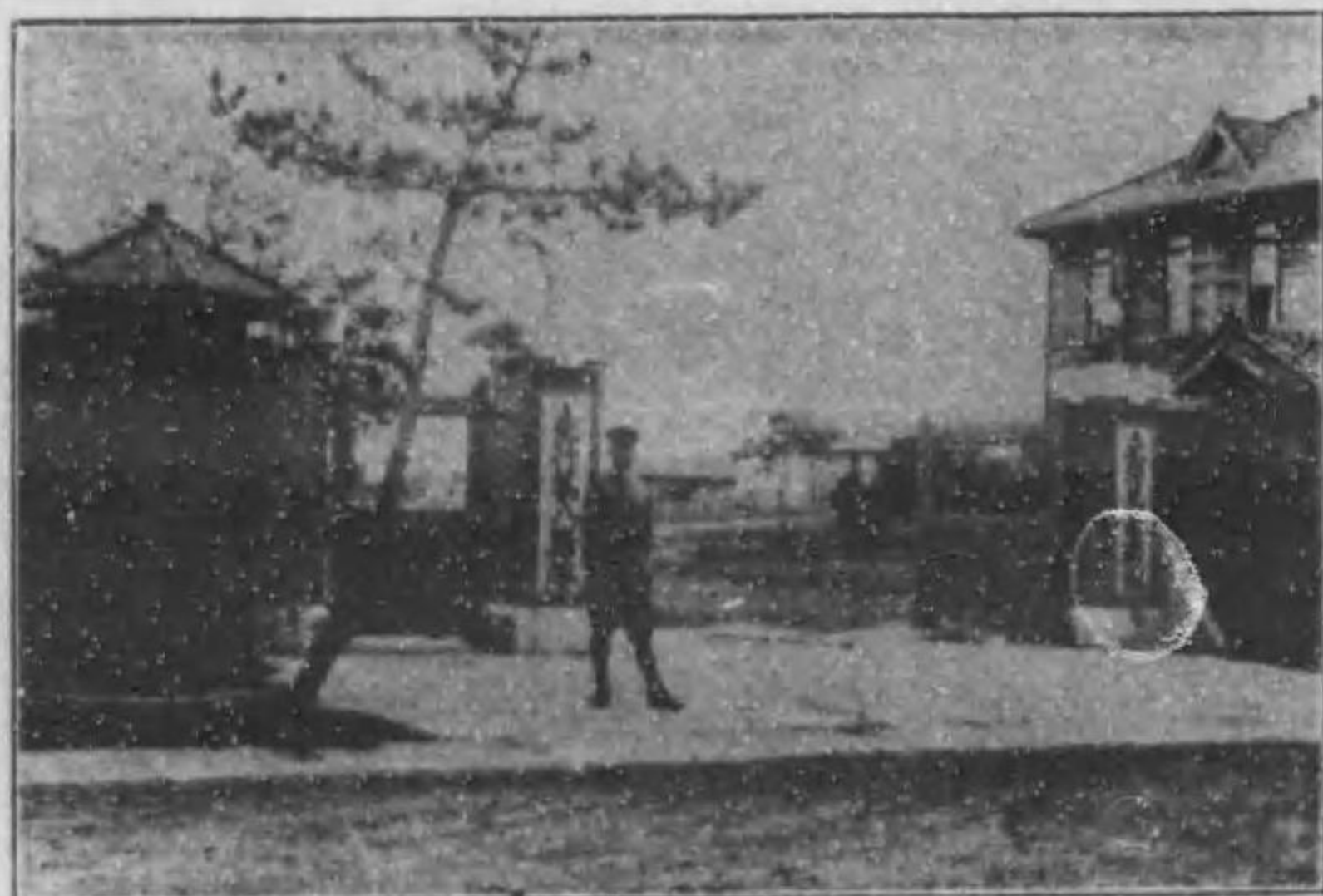
久留米市は、筑後川にのぞみ鹿兒島本線に沿うてゐて昔は有馬氏の城下町であつた。

今は筑紫平野の物産の集散地であると共に、軍事上の一中心

地で北方に大刀洗の航空隊もある。

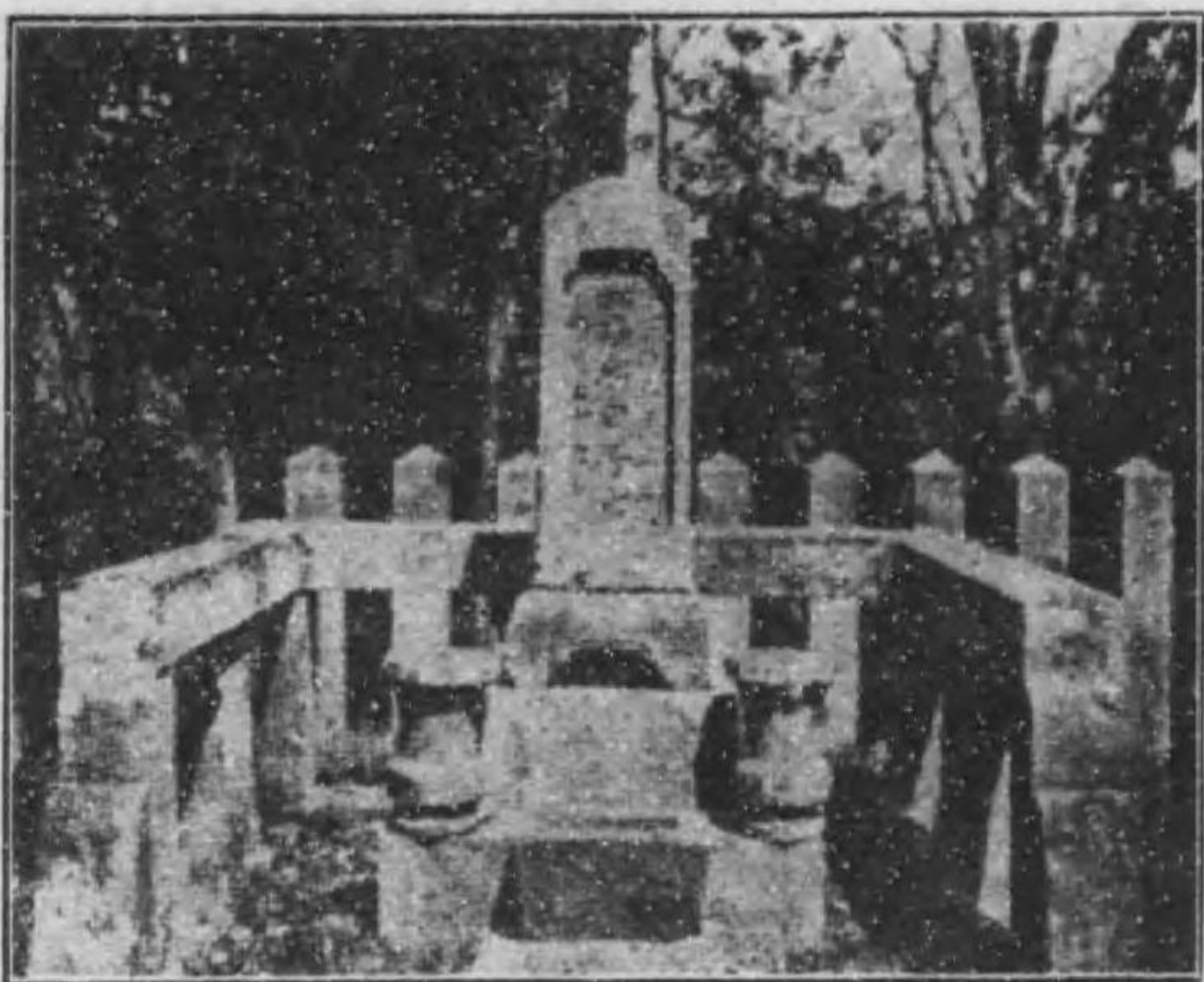
熊本縣との境に近く大牟田市がある。

ここは三池炭田の爲に發達したと云つ



大刀洗

高山彦九郎墓



てよい。

市の西南に開港場の三池港があつて、盛んに三池炭を輸出してゐる。

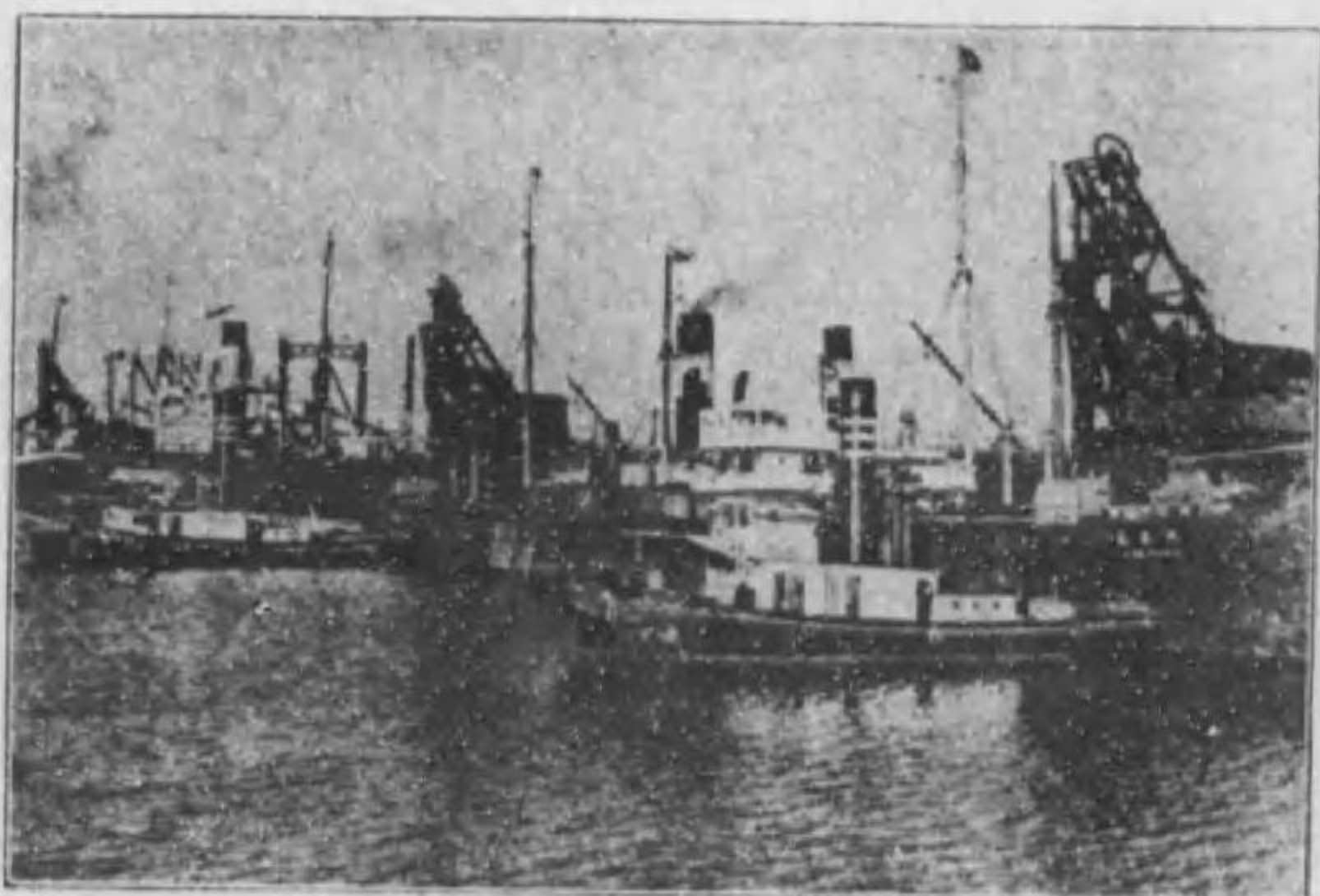
大牟田市も

又工業が盛

んである。

〔問題一〕 本縣は何故に北部にのみ主なる都邑が發達してゐるか。

〔問題二〕 八つの市を各々何の中心地か云つてみよ。



三池港

第十一 沿革

福岡縣は、もとの筑前、筑後の兩國と、豊前の一部からなつてゐて、其の縣名は縣廳の所在地である福岡市の名をとつたものである。

福岡の名は、この地がもと黒田氏の城下であつて長政公が城を築かれる時、祖父の生れられた、備前國邑久郡福岡の地名を記念する爲に名づけられた。

遠き昔、今の九州は筑紫の國、熊襲の國、火の國、豊の國と四つに分れてゐたと云はれてゐる。その筑紫の國がどこか

らどこまでであつたかその境は勿論明ではないが、大体後の筑前筑後あたりであらう。この二國の名は實に筑紫の紫を略して、其の位置の前後によりて名づけられたものである。

豊前の國は、豊後の國とともに、昔豊の國と云はれてゐた。豊は豊葦原の意味で、トヨサカなどと國をほめた言葉である。この國は又中津國ともよばれ、とにかく神代から關係の深い地である。

福岡縣は位置の關係上、その昔大陸(朝鮮、支那等)と交通するやうになつてから、ますます大切な所とされたことは、太宰府の役所を置き水城を築かれた事から考へてもよく知る

事が出来る。

殊に神功皇后の三朝征代や元寇等歴史上有名な事柄が澤山残つてゐる事によつてもうなづかれるのである。

こんなにも本縣の位置は尊い歴史を作り、且今日の發展をすすめてゐるものと云へる。

明治二年に至り、筑前の國は、福岡藩と秋月藩、豊前の國は香春藩と千束藩と中津藩、筑後の國は久留米藩と柳川藩とに分れたが、同年十一月福岡、秋月は一緒になつて福岡縣に、中津、千束、香春は小倉縣に、久留米、柳川は三潞縣になつた。

更に明治九年四月には福岡縣と小倉縣が合併して福岡縣となり同年八月には三潞縣をも合せて今日の福岡縣となつたのである。

福岡縣地理書

(終)

有 所

權 版

濟可認部令司塞要關下

• 附 奧 • 書 理 地 縣 岡 福

大正十五年拾月壹日印刷
大正十五年拾月五日發行

定價金 參拾錢

著 作 者

福 岡 縣 教 育 會

發 行 者

福 岡 市 中 島 町 九 番 地
山 本 彌 助

印 刷 者

大 阪 市 西 區 京 町 堀 上 通 三 丁 目 三 十 七 番 地
北 村 一 郎

印 刷 所

大 阪 市 西 區 京 町 堀 上 通 三 丁 目
積 善 館 印 刷 所

發 賣 元

久 留 米 市 米 屋 町
福 岡 市 中 島 町

金 文 堂

終